

# 2021



## グローバル人材育成事業

### 活動報告書



学校法人東洋大学

東洋大学附属牛久中学校・高等学校



2021

# グローバル人材育成事業 活動報告書

- P.6 巻頭言 本校の目指すグローバル人材像
- P.7 2021年度グローバル人材育成事業 取り組み概要

## 【授業実践報告】

- P.9 「グローバル探究」実践報告 課題研究 中高一貫コース「グローバル探求」の完成に向けて
- P.11 「グローバル探究」実践報告 哲学
- P.13 「グローバル探究」実践報告 国際理解
- P.15 「中国語会話」授業実践報告 コロナ禍における「中国語会話」授業の成果
- P.17 「フランス語」授業実践報告
- P.19 校内留学生交流会の報告
- P.22 英語インタラクティブフォーラム東洋カップ 2022 校内大会

## 【校内行事】

- P.24 エンパワーメントプログラム
- P.26 All English Days (中学校1年)
- P.28 英語落語発表会 (中学校2年)

## 【生徒活動報告】

- P.30 英語プレゼンテーションフォーラム・高等学校の部
- P.33 令和3年度第58回茨城県高等学校国際教育英語スピーチコンテスト
- P.33 第70回チャールズ杯争奪全国高等学校生英語弁論大会
- P.36 令和3年度第11回茨城県ローズ杯 高校生英語ディベート大会 参加報告
- P.37 第4回茨城県パラメンタリーディベート大会
- P.38 第7回PDA 高校生即興型英語ディベート全国大会
- P.40 日本語ディベート大会
- P.41 第23回関東甲信越地区中学・高校春季ディベート大会
- P.42 2021年度英語スピーチ参加報告 (中学校)
- P.44 第4回全国高校生SRサミット“FOCUS”参加報告
- P.46 2021年度 全国高校生フォーラム参加報告

## 【高大連携】

- P.48 東洋大学国際観光学部 附属牛久 京北 高大連携企画

## 【グローバルセミナー】

- P.50 「ワールドキャラバン」国際理解教育講師等派遣事業

## 【海外研修】

- P.52 アメリカ・サンディエゴ研修 (高校2年グローバルコース)

## 【国内研修】

- P.54 イングリッシュキャンプ in 河口湖 (高校1年グローバルコース)
- P.56 イングリッシュキャンプ in 河口湖 (中学校2年)
- P.58 京都語学研修 (中学校3年)
- P.61 冬休みイングリッシュキャンプ in 河口湖
- P.62 ブリティッシュヒルズ語学研修
- P.64 English Workshop in NAGASAKI
- P.66 課題解決型・岩手修学旅行 (高校2年進学・スポーツコース)

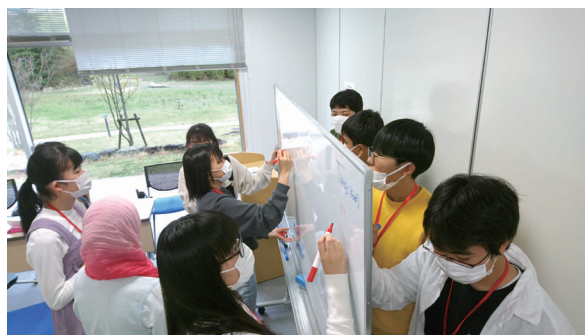
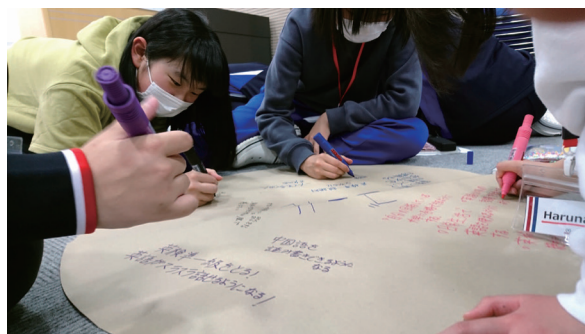
## 【成果と課題】

- P.68 2021年度本校グローバル人材育成事業の成果と課題

## ◆ イングリッシュキャンプ in 河口湖

2021年4月11日(日)～17日(土)

東洋大学の河口湖セミナーハウスで、中学生は英語学習、集団行動、公德心の育成を目的としており、高校生は入学後間もないグローバルコースの生徒が英語漬けの1週間を過ごすイングリッシュキャンプ。英語に取り組んで実感した壁を感じさせ、友達と共有し、互いの頑張りを共有させ、語学や文化に対して学び合う風土を形成する。





## ◆ 第4回全国高校生SRサミット“FOCUS”

2021年7月、2022年1月

生徒が日本に留学中の大学生とSDGsに関わる各校のプロジェクトの課題について協働で取り組み、その解決策を検討することを通して、互いに高め合う機会とする。生徒が社会の一員として理想とする社会について考え、どのような社会貢献ができるかを考える。



## ◆ All English Days (中学校1年)

2021年11月4日(木)、5日(金)

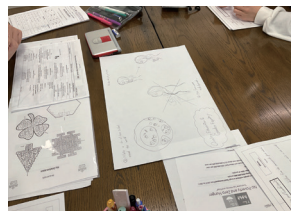
オールイングリッシュの授業は英語に触れる量を増やせるという点で、英語力を格段に伸ばすことができる。自分の意見を英語でネイティブの先生に伝えることができたという喜びを味わうことにより、コミュニケーション能力の向上に繋がる。





## ◆ ブリティッシュヒルズ語学研修

日常とは違った環境において、英会話レッスンと異文化体験、合宿生活を行うことにより、参加生徒の英語を話すことへの抵抗感をなくし、英語学習に対するモチベーションを高める。語学学習及び国際理解を深める場を設けることでグローバル人材育成を目指す。



## ◆ English Workshop in NAGASAKI

2022年3月6日(日)～3月9日(水)

ネイティブ講師の指導の下、英語でのプレゼンテーション能力を向上させる。また、ハウステンボスにおいてSDGs達成に向けた取り組みについて学ぶ。

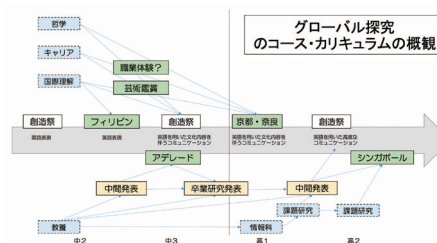




# ◆「グローバル探究」実践報告

## ・課題研究

中高一貫コースでは、自身の探求課題を設定して研究活動を行う「課題研究」の授業を実施している。中高一貫コースにおけるグローバル人材の育成は、課題研究の授業を中心として、学校行事全般との関わりの中で育成していくという共通認識の基で設計されている。



## ・国際理解

日本人の特性や現在の日本が抱えている様々な問題について知識を深め、自らの問いをつくる授業を通して日本人としてのアイデンティティの確立を図る。諸外国の研究を専門に行っている講師から世界の多様な文化について学び異文化理解へとつなげる。日本や海外の大学について調べる活動を通して、大学で研究される学問分野について知る。



## ・哲学

教育的な哲学科とは何かを考えた際、哲学者の発想を網羅することよりも、主体的に考えて動いていく発想が必要であると考え、自分の目や耳、手と足を使って、データを採取したり、根拠を掴んだりして、哲学するための考え方を身につける。1つの大きな問を生徒に与えるプロジェクトベース型の学習を展開し、日常生活と哲学的な活動が一体化していく。





# 本校の目指すグローバル人材像

校長 藤田 正美

世界は、国や地域の隔たりがなくなり、地球規模で環境・社会・経済などの面でつながり、影響し合っています。二酸化炭素の排出量の増加により気温や海水温が上昇し、生態系が変化したり自然災害が多発するようになっています。また、ある地域の紛争が世界の石油取引価格の上昇の原因となっています。食料自給率が約37%しかない日本は、大豆や小麦や肉・魚など多くの食料の供給を海外に頼っているのが現状です。

日本において、グローバル人材が注目されるようになった背景には、ICTの普及や少子高齢化等により、企業が海外に生産拠点や市場を求めようになったことが挙げられます。ICTの普及によって輸送や通信にかかる費用が大幅に低下したため、国をまたいだビジネス展開がしやすくなりました。また、少子高齢化や人口の減少により国内市場が縮小したことが海外への事業展開を図るきっかけとなったといえます。

グローバル人材とは、文部科学省によると「世界的な競争と共生が進む現代社会において、日本人としてのアイデンティティを持ちながら、広い視野に立って培われる教養と専門性、異なる言語、文化、価値を乗り越えて関係を構築するためのコミュニケーション能力と協調性、新しい価値を創造する能力、次世代までも視野に入れた社会貢献の意識などを持った人間」と位置付けられています。

また、総務省では、グローバル人材について、「日本人としてのアイデンティティや日本の文化に対する深い理解を前提として、豊かな語学力・コミュニケーション能力、主体性と積極性、異文化理解の精神等を身につけたさまざまな分野で活躍できる人材」と定義づけています。

「日本人としてのアイデンティティを持っていることを前提とした」という表現は、あくまでも日本に軸足をおいたグローバル人材ですよというように感じられ、いささか違和感を覚えます。日本の文化や価値観等に対する理解を深めることは意義がありますが、そのことにこだわることなく物事を考えられることが重要です。

本校では、日本の利益発展といったインターナショナルな視点ではなく、世界の人々の幸福という視点に立って人材育成に努めてきました。そのため、語学力やコミュニケーション能力を高めるプログラム、主体性やチャレンジ精神を育てる機会の提供、日本及び海外の文化に触れる行事の実施などを進めてきております。2021年春、ある卒業生は、「教育の機会のないアフリカの子供たちにチャンスを提供したい」という夢を持って、関西の大学に進学していきました。本校の目指すグローバル人材像を具現化した例と考えています。

今年度も、新型コロナウイルス感染拡大の影響で海外との交流が果たせない場面が数多くありましたが、そうした中で工夫を凝らして実施してきた記録をまとめましたので、お読みいただければ幸いです。

# 2021 年度グローバル人材育成事業 取り組み概要

## 1 育成を図るグローバル人材像

- ・ 伝統文化に裏付けられた日本人としてのアイデンティティを有する人物
- ・ 世界の多様な文化を理解し、彼らと共生できる能力を有する人物
- ・ 地球的課題の本質を見抜く力及び解決を主導する能力を有する人物
- ・ 世界の人々と協調しながら情報を共有し、意見を発信する能力を有する人物

## 2 対象生徒（2022年3月1日現在）

- 【高校】 グローバルコース 4クラス 163名（3年1クラス40名、2年2クラス79名、1年1クラス44名）  
特別進学コース 6クラス 246名（3年1クラス43名、2年3クラス127名、1年2クラス76名）  
中高一貫コース 6クラス 179名（3年2クラス71名、2年2クラス53名、1年2クラス55名）  
【中学校】 6クラス 199名（3年2クラス47名、2年2クラス82名、1年2クラス70名）

## 3 事業の目標

次の7つの資質・能力を持つ生徒を育成する。

- ①主体性・積極性      ②異文化理解      ③課題探究・解決能力      ④ICTスキル
- ⑤外国語能力      ⑥プレゼンテーション能力      ⑦コミュニケーション能力

## 4 事業の内容「学校設定科目『グローバル探究』で育成するグローバル人材」

教科の垣根を超えたグローバル人材育成のための学校設定教科「グローバル探究」に置かれた5つの科目は、アクティブラーニング、グループワークを中心とした方法で、ICT機器を積極的に利用して行われている。2020年度に全教室にWi-Fiが完備され、2021年度は高1・2全員及び高3特進コースがChromebookを所持、中高一貫コースについては中1～高3全員がiPadまたはChromebookを一人一台所有し、授業で活用している。

- ・ 国際理解…外国人教員が担当。世界の多様な文化について学び異文化理解を進める。
- ・ 教養……日本人の特性や日本が抱えている様々な問題（少子高齢化、環境問題、エネルギー問題、自然災害等）について考え、日本人としてのアイデンティティの確立の一助とする。
- ・ 哲学……東洋大学の創業者・井上円了の「諸学の基礎は哲学にあり」の教えに基づき、哲学者の思想を通して、哲学的なものの見方や考え方を養う。
- ・ キャリア…大学で研究される学問分野、社会における様々な職業について理解し、海外にも目を向けて高校卒業後の進路について考える。
- ・ 課題研究…各生徒が研究テーマとして現代社会の課題を1つ取り上げ、その原因や解決方法を考察する。課題研究の成果についてはプレゼンテーションを行い、報告書を作成する。

## 5 課題研究テーマ「望ましい未来の創造」

インターネットの普及や交通機関の発達により、急速にグローバル化が進展し、国内外の様々な人々の価値観に触れることができるようになった現代社会では、よりよい社会のあり方を再定義し、その実現を目指すための未来洞察力、課題発見力、他者と協調する力が必要となる。そこで、本校では生徒が取り組む課題研究のテーマを「望ましい未来の創造」とし、研究活動を進める。また、こうした人材を育成するための教育システムの構築及び、教員が指導・評価するための観点の開発を行う。

### (1) 国内外の高等学校・大学・国際機関等との連携

#### ①東工大研究室との連携による未来創造プロジェクト

未来創造プロジェクトでは、現在の社会や市場の延長線上である未来の社会がどのようなものであって欲しいかという「望ましい未来」の創造を重要なアウトプットとし、未来の社会を共創する未来洞察ワーク



ショップを実施する。

②東洋大学教員・院生との連携によるゼミの実施

研究活動に対する生徒のモチベーションを維持し、成果物をより良いものにするためには、中期的な目標の設定及び、継続的な研究成果報告の場が必要になる。そのため、東洋大学と連携して教員・院生を対象とした研究報告を年に3回程度のペースで実施する。

(3) 実践的な方法を用いた学習活動

①グループワークの実施…日々の探求活動は、生徒4～5名程度で構成されたグループで行う。各グループには担当教員がついて、毎月の目標及びグループメンバーの役割について確認する。教員は生徒の進捗状況を確認しながら、研究活動が円滑に進むようにフィードバックを行う。本校では生徒が一人一台 Chromebook を所有しており、Google Document や spreadsheet を通じて共同作業を行うことができる。

②プレゼンテーションの実施…本校の課題研究では、定期的に自分たちの研究の進捗状況を他者に報告する活動をカリキュラムの中に入れていく。定期的な機会としては、東洋大学の教員・院生を対象とした研究進捗プレゼンテーションがある。また、10月～11月には、留学生又はシンガポール大学の教員・学生に向けた研究プレゼンテーションを行い、英語での研究発表にも挑戦する。

③論文の執筆…高校2年次には、3月までに英語・日本語での研究原稿の執筆を行う。

(4) 校内研修と校外発表…SDGs など人類の課題に関する学習と英語研修を融合した英語インタラクティブフォーラム東洋カップ、エンパワーメントプログラムを校内で実施する。その成果を生かし、校外の研究発表会、ディベート大会、外国語スピーチコンテストへ積極的に出場する。

(5) 海外研修…オーストラリア研修・シンガポール研修において課題研究に関する報告を英語で行う。

## 6 事業の評価方法

### (1) 自己評価

①～⑦の能力について、次の指標や分析によって、事業成果の評価を行う。

①主体性・積極性…〔指標〕任意参加の海外研修数、国内語学研修（夏休み、冬休み、春休み）への参加生徒数、WWL・SGH ×探求甲子園など外部での研究成果発表件数、語学やディベートなど外部コンクールへの参加人数、海外留学者数、海外大学への進学者数

②異文化理解…海外研修行事の前後に行うルーブリック自己評価、生徒宅でのホームステイ受け入れ数

③課題探究・解決能力…ICT 機器による共同作業の操作記録及び各グループの発話内容を記録し、「グループワーク」と「発話内容」を軸としたルーブリックを作成、それを利用した評価を行う。

④ICT スキル…生徒へのアンケート結果分析、ICT を活用した提出物、発表の評価

⑤外国語能力…英検2級（CEFR B1 レベル）以上の合格者数、外国語コンクール（英語・中国語・フランス語）の出場者数、入賞者数

⑥プレゼンテーション能力…校内で実施する課題研究プレゼンテーションや提出された論文・報告書の評価、生徒各自によるルーブリック自己評価の分析

⑦コミュニケーション能力…定期考査において実施するスピーキングテストの結果、海外研修、海外生徒受け入れ事業への参加生徒によるルーブリック自己評価の分析

### (2) 学校関係者評価

学校法人東洋大学の職員および本校のPTA・同窓会より選出された委員で構成されたSGH ネットワーク研究開発評価委員会において、本事業が育成目標としている生徒の1) 主体性・積極性、2) 異文化理解、3) 課題探究・解決能力、4) ICT スキル、5) 外国語能力、6) プレゼンテーション能力、7) コミュニケーション能力・資質の向上についての、5段階で評価する。

### (3) 評価の公表方法

グローバル人材育成事業報告書（2015年度より年1回発行）に掲載し関係機関に配付する。また、学校ホームページにて公表する。さらに2024年全国私立大学附属・併設 中学校・高等学校教育研究集会にて発表を行う。

# 「グローバル探究」実践報告 課題研究 中高一貫コース「グローバル探究」の完成に向けて

教諭 徳竹 圭太郎（地理歴史・公民科）・佐久間 大（地理歴史・公民科）

## 1. はじめに

中高一貫コースでは、自身の探求課題を設定して研究活動を行う「課題研究」の授業を実施している。研究の進め方は担当する教員の判断及び生徒特性を考慮して設定しているが、中高一貫コースにおけるグローバル人材の育成は、課題研究の授業を中心として、学校行事全般との関わりの中で育成していくという共通認識の基で設計されている。本稿では中高一貫コース3期生、4期生の研究活動の内容について報告した上で、現状の課題と今後の展望について述べていく。

## 2. SDGs をテーマとした研究活動の設定（高校1年生 4期生）

4期生の探究活動は（1）研究のフレームワークを身につける、（2）他者と協力しながら主張をまとめあげる、という2点を到達目標として設定しており、創造祭での研究報告を目指して研究活動を行ってきた。以下の表1に活動の流れを示す。

表1 4期生の研究スケジュール

4月	○（講義）SDGsの考え方と社会全体でどのような取り組みが行われているのかを理解する
5月	○自身の探求課題を設定する ※生徒の興味関心に基づいてグループ分け
6-9月	○研究活動 ※研究目的の設定、手法の検討、データ収集（アンケート、フィールドワーク、実験室実験）
10月	○創造祭に向けたプレゼンテーション制作



図1 グループ活動の様子

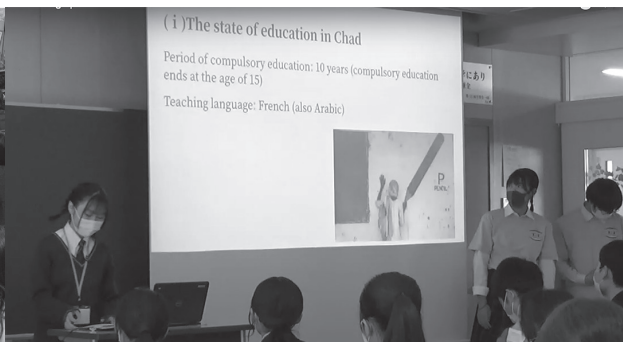


図2 研究発表の様子

## 3. 個別研究課題の設定と追求（高校2年生 3期生）

3期生の課題研究は、原則、生徒それぞれが個人で、自由に研究課題や領域を設定し、独力で探究活動を進める特徴を持ったカリキュラムである。到達目標として(1)探究活動の魅力に気づき、自分の「探究活動の特徴」を説明できる、(2)探究するためのスキル・資質・実行力を身に付ける、の2点を設定し、これを達成させるための課題として(A)英語もしくは日本語で自分の研究活動を記述する機会を与える（発展研究論文）、(B)英語もしくは日本語で自分の研究活動を発表する機会を与える（進捗報告会・総括発表会）の2点を設定した。以下の表2に活動の流れを示す。



表2 3期生の研究スケジュール

時期	A 班	B 班
4-6 月	○アカデミックスピーキング・ライティング 英語でのプレゼンテーション、質疑応答 英語論文で用いるフレーズの学習	○研究指導 生徒の研究活動のサポート 実験や文献調査を促す
7 月	中間報告書の作成・提出、進捗報告会	
8-10 月	○研究指導 生徒の研究活動のサポート 実験や文献調査を促す	○アカデミックスピーキング・ライティング 英語でのプレゼンテーション、質疑応答 英語論文で用いるフレーズの学習
11-2 月	○発展研究論文の執筆・提出、プレゼンテーションの作成 論文：4000 字～ 8000 字の報告書を作成させる（英語・日本語） ※検印等をして、その価値の重さを実感させる 論文作成では、定期的にピアレビューを行い、お互いの論文を添削させる	
3 月	○研究成果報告会	

3期生の課題研究では、日々の探究活動だけでなく、東京工業大学と連携した「未来創造ワークショップ」を実施し、長期的な視座で社会問題を捉える力の育成、ファシリテーション能力の向上に努めた。



図3 アカデミックスピーキングの様子



図4 東京工業大学連携企画の様子

#### 4. 現状の課題と今後の展望

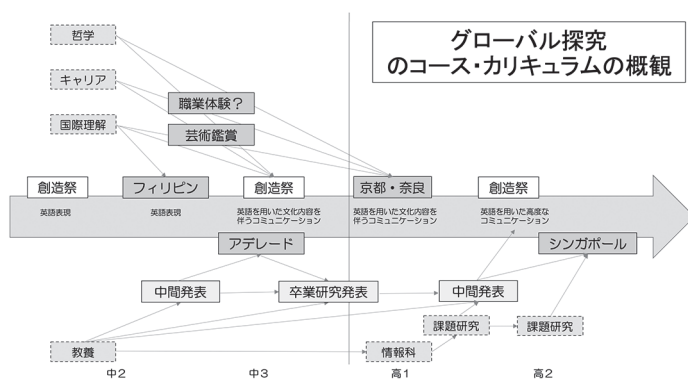


図5 グローバル探究のカリキュラム概観

上述したように、中高一貫コースでは課題研究の授業を中心としてカリキュラムが構成されているが、進め方については担当者に一任されている。そのため、生徒の研究活動をどのように進めていくかという手法の蓄積が不十分であり、6年間を見通したカリキュラムの設計が困難である。

これを解消するためには、今後グローバル探究科などの校務分掌を設定し、体系的なカリキュラムの設計と、手法の蓄積を行う必要があると考える。

# 「グローバル探求」実践報告 哲学

教諭 佐久間 大 (社会科)

## 1. 開発した哲学カリキュラムの概要

教育的な哲学科とは何かを考えた際、哲学者の発想を網羅することよりも、主体的に考えて動いていく発想が必要であると考えた。そこで著者は、「世の中の現象一つひとつを自分の目や耳、手と足で確かめながら、普遍的な解を捉える活動そのもの」を哲学として定義し実践の開発を行った。

カリキュラムは、前半部と後半部の2パートに分かれる。前半部では、自分の目や耳、手と足を使って、データを採取したり、根拠を掴んだりして、哲学するための考え方を身に着ける段階である。授業実践それぞれは、1～2時間で完結するパッケージとした。後半部では、1つの大きな問を生徒に与えるプロジェクトベース型の学習を展開し、生徒に前半部で身に付けた技術や発想を活用させながら、日常生活と哲学的な活動が一体化していく構成とした。学習の成果物としては、A4用紙1枚のレポートを課した。

### 1.1. 赤ちゃんは最強の哲学者

この事例では、生徒に対して次の論題を与えた

〔論題〕赤ちゃんや子どもは、いつでも“外”の世界に興味津々であり、虫や葉っぱや土などを触って、世界がどうなっているのかを知ろうとしているのではないか

この論題を基に、自然哲学で有名な「万物の根源」を考えさせた。アナクシマンドロス、アナクシメネス、デモクリトス、ヘラクレイトス、パルメニデスなどの代表的な哲学者とその考え方を紹介し、生徒自身に第6の自然哲学者として同様の哲学を行うよう指示した。この時、赤ちゃんの目線で捉えようとする心がけと、自分の手や足を使って検証する心構えを入念にさせた。この結果、生徒らは新しい見方・考え方で、物事を考える体験が出来た。

### 1.2. 事例2 ルールを疑え

この事例では、生徒に日本や世界にみられる「ヤバイルール」を調べさせることを通じて、そのルールにどんな意味や価値(普遍的な意味)があるか哲学させる活動を行った。その結果、「親友を作ってはいけない」という校則に対して、「別れが寂しくなることを避ける点で意味がある」と論じる生徒がいた。また「女子が坊主になると退学になる」というルールに対して、「ガン闘病者に酷似する点で、差別的な目を向けさせないという点で意味がある」と述べる生徒がいた。

### 1.3. 事例3 主観と客観の先にあるものを問え

この事例は、生徒をミニ研究者として位置付け、1時間内にマイクロアンケート調査、マイクロ論文執筆を体験させることを通じて、主観と客観について考えを深めさせる活動を行った。哲学者と同様、研究者は「普遍的な解」を探求する生き物である。その結果、収集するデータは「客観的」でなければならない一方で、そのデータは本当に客観的と言えるのかについて言及し、生徒は「回答者による主観的なデータに過ぎず、それは客観性のあるものと言えるのか」という新たな命題にたどり着くことが出来た。

### 1.4. 事例4 街のデザインから見るあなたの哲学を見つけろ

30年後の町をデザインするプロセスを通じて、自身の「生き方哲学」に迫ろう

本学習は、町のデザインを行うワークショップを通じて、自身の経験してきた「社会認識(生き方哲学)」を明らかにすることを目的とする。概要は次の通りである。模造紙を用いて、3～4名の生徒を1グループとし、30年後の街をデザインするためのアイデアを出させた。その際、KJ法、ブレインストーミング、ファシリテーションなどの技術について教えながら、協同的な学習を実施した。その結果、得られたアイデアをカテゴライズさせ、自身らが価値を置く社会認識(社会福祉や社会権を大事にしようとする見方、個人の自由権を大事にしようとする見方)を明らかにすることを通じて、それぞれの主義(社会主義、自由主義など)に迫る学習を展開した。写真1、2にそれらの様子を示す。





写真1

写真2

## 2. プロジェクトベース型の事例

### 2.1. 「現代の高校生が平和を生きるためには？」の実践

後半部の流れは次の通りである。9月にレポートの書き方、10月にレポートを書く練習をさせながら、「現代の高校生が平和を生きるためには何をすべきか、止めるべきか」という大きな問を与えて、翌年の1月までにデータ集めなどの調査活動をさせ、同年2月にレポートを書き上げるという流れであった。

この時、生徒に対して教えたレポートの書き方では、通常では序論・本論・結論という流れが多い。しかし、この人文科学に多い形式では、背景や考察が冗長になりがちで、「何を書いてよいかわからない」「何を書いているかわからなくなる」という疑問が殺到することが容易に想像できた。そこで、哲学科のレポートではあるものの、理化学によくみられる「研究背景・研究目的・研究方法・結果と考察」という形式を示し、レポートに執筆に取り組ませる配慮をとった。

### 2.2. 実践結果

以下に生徒のレポートの一部を示す。

多くの人が平和という言葉が簡単にするが、そもそも平和とは何だろうか。Googleによれば、「戦争や暴力で社会が乱れていない状態のこと」と出てくる。私が思う平和とは、自由で争いごともなく、やりたいことが自由に出来ることだ。そこで本研究では、実際に平和な状態になってみようと、自由な時間を通じ、平和とその心理について明らかにする。本研究では、平和な時間を体験するために、①誰ともしゃべらず、②校外の緑を眺めて、③ぶらぶらと校庭を歩くことを実施してみた。これは平和とその心理について明らかにするためである。その結果、私の心理は「なんでもできるが何もしたくなくなる」に至った。

そして時間はあっという間に感じられた。ここから平和な状態に入るには、時間という概念をなくす必要があると考える。常に日々の生活において、行動が時間によって縛られているため、より一層そう感じたのだろう。(生徒のレポートの一部)

これらの結果から、生徒たちが本実践で定義した哲学的な活動へ十分に取り組んでいることが読み取れる。今後は、これらの活動の効果を検証していくことが課題である。

# 「グローバル探求」実践報告 国際理解

教諭 先田 興為智（外国語科）・教諭 松井 蘭丸（数学科）

## 1. 概要

期 間：2021年4月～2022年3月

場 所：本校教室および講堂

参 加 者：高校1年特進クラス76名

## 2. 目的

①日本人の特性や現在の日本が抱えている様々な問題について知識を深め、自らの問いをつくる授業を通して日本人としてのアイデンティティの確立を図る。

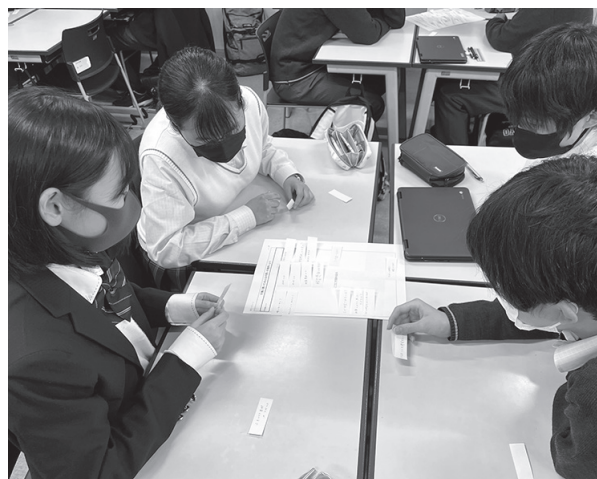
②諸外国の研究を専門に行っている講師を積極的に招き、講演を行うことで、世界の多様な文化について学び異文化理解へとつなげる。

③日本や海外の大学について調べる活動を通して、大学で研究される学問分野について知り、国内だけでなく海外大学の進学も視野に入れたキャリア教育を行う。

## 3. 内容

### 第一期（4月～7月）「日本と世界の大学について知る」

本来であれば、オープンキャンパスなどを通して、大学に対するイメージを膨らませていくところであったが、コロナ禍ということもあり、各大学が作成している紹介動画を視聴することで、国公立大学と私立大学の違いを比較する活動を行った。動画内であっても学部の紹介や、部活動、学園祭の紹介方法からも各大学の特色が色濃く出ていた。また、神戸市外国語大学でロシア呪術の研究をしている藤原 潤子氏による講演を行い、大学での授業に近い形式で異文化について知る機会とした。



小論文類出テーマ解説集からテーマを選択し、「問いをつくる授業」を行った。具体的な内容としては、環境問題について考える単元で「日本の再生エネルギー比率は16%である」というキーワードからそれぞれが疑問に思うことを言語化するためにグループ活動を行い、そこで明らかになった自らの問いを元に課題を解決する方法を探求して学習である。その際にある程度の字数の設定をして、小論文形式で個人が書いていく活動を取り入れることで、自らの考えを論理的にアウトプットできるような授業を継続して行った。



## 第二期（8月～3月）「現在の日本が抱えている問題について考える」

【事後の生徒の感想およびアンケート結果】（Google フォームによる、回答数：74人）

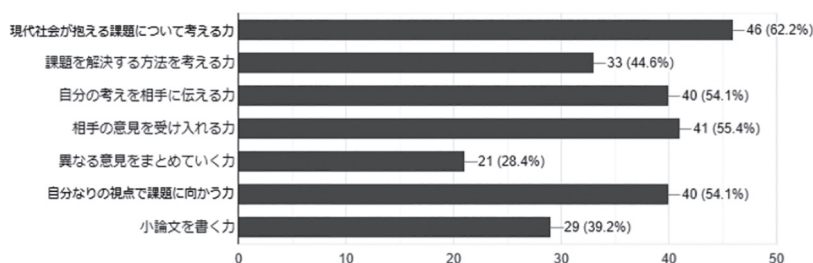
質問1 国立大学と私立大学の違いはどんなところだということが分かりましたか。

- ・私立大学は、海外への進出だったり、グローバル化に合わせて外国人との関わりを多く持つような授業やプロジェクトが多い。国立大学は、私立大学と比べて学費が安い。また、国立大学教員の殆どが国立大学出身であることが多い。国立大学の建築物は全体的に歴史を感じられるものが多いが、私立大学は最先端の技術を取り入れた研究室やキャンパスが多くあるところが違う点だと思う。
- ・国立大学のほうが学費は安いけど、大学が建てられた理由や建てられるまでの物語が深いのは私立大学だと思う。国立大学はすべての大学の偏差値が高く、本当に一部の人だけしか進学できないというイメージがあるが、私立大学は偏差値の幅が広くて多くの人が学びたいことを学べると思う。

質問2 「問いをつくる授業」について

2. 「問いをつくる授業」を通して自分が伸びたと思う力を全て選んでください。

74件の回答



小論文形式による生徒の解答より「自然エネルギー活用における現在の問題点を指摘した後、将来必要な取り組みについてあなたの考えを、200字以上600字以内で述べよ。」

- ・私は、溜まった自然エネルギーを使いすぎず、節約することが大事だと思う。まず自然エネルギーの問題点として、自然エネルギーを作り出す太陽光発電や、風力発電などは、時間や天候などに大きく作用されてしまうという事だ。そして需要と供給のバランスが崩れて大規模停電の原因になるといったリスクがある。しかも自然エネルギーは、貯めることがとても難しい。そのために蓄電池などエネルギーを貯められるようなシステムが必要なのである。そうすれば、少しずつ火力発電の割合も減っていき、環境に良いエネルギー活用ができる時代が少しずつ近づいてくるはずである。

質問3 国際理解のために必要なことは何だと思いますか。

- ・各国の文化を学び尊重し合うことが必要。反発意見をするだけでなく相手の意見を良く聴き、理解することが大切。
- ・自分の国の文化を詳しく知ることはもちろん、他国の文化を知り、自分の国の文化と比較して他国の文化の良いところを探したり、他国の文化を新しく知ることは視野が広がる、という考えを持つこと。

## 4. 成果と課題

週に一時間設定されている国際理解の時間であるが、3年間という長期的な視点をもって活用していくことが必要である。生徒は国際理解教育という言葉を聞くと、海外で活躍するための学習だととらえがちであるが、日本人としてのアイデンティティを確立した上でのキャリア教育へとつなげる方法を、模索していきたい。

## 「中国語会話」授業実践報告

# コロナ禍における「中国語会話」授業の成果

教頭 鈴木 伸一（国語科）

今年度の外国語自由選択授業「中国語会話」は、36名の受講者となり、コロナ禍にもかかわらず、一定の関心の高さがうかがえる。必修化して6年目を迎えたグローバルコース設置の「中国語会話」では163名が学んでいる。グローバルコースは「英会話」も必修のため、3年間で英語と中国語の2か国語が身につくというアドバンテージをもっており、その位置も確かなものとなり、本校の志願理由のひとつになりつつある。全校で199名の生徒が中国語を学ぶというスケールを誇り、かつ英会話やフランス語会話を設定していることもあり、多言語を同時習得可能な環境が整ったといえる。

しかしながら、2021年度は、2020年度に続き、コロナ禍という状況にあり、大学卒業後に航空、旅行業、観光業等へのキャリア志向のある生徒たちの将来には、大きな不安を残している。

本校でのグローバル関連事業のほとんども、コロナ禍という状況によって、中止または実施方法の変更、規模の縮小といった具合に大きな影響を受けた。また、予定を立てていても、感染拡大状況によっては、直前に中止とせざるを得ない等、柔軟な対応が求められた。

そうしたコロナ禍においても、各種の中国語スピーチコンテストは、その方法を工夫し、実施されるケースもあり、本年度のグローバル関連事業の一環として、有為であった。結果は以下の通りである。

### ①第39回全日本中国語スピーチコンテスト茨城県大会

日時：2021年10月24日（日）／場所：駿優教育会館

結果：<中高生 朗読部門> 最優秀賞 糸賀 千尋（3年） 優秀賞 長井 実桜（2年）

<中高生 スピーチ部門> 優秀賞 吉村 佳穂（3年）

・最優秀賞の糸賀千尋と優秀賞の吉村佳穂は、茨城県代表として全国大会に推薦された。

### ②第39回全日本中国語スピーチコンテスト全国大会

日時：2022年1月9日（日）／音源審査

結果：スピーチ部門「中学生・高校生部」第二位 吉村 佳穂（3年）

朗読部門「中学生・高校生部」優秀賞 糸賀 千尋（3年）

### ③第25回全国高校生中国語スピーチコンテスト（京都外国語大学主催）

日時：2022年1月29日（土）／音源審査

結果：初級部門 京都外国語大学総長賞 長井 実桜第（2年）

中級部門 京都商工会議所会頭賞 吉村 佳穂（3年）

①の茨城県大会では、茨城県日中友好協会様の推挙により、上記2名の生徒が全国大会への出場を果たすことができた。②の全国大会は、無観客の形で東京都の日中友好会館で行われた。本校生が最初の登壇ということで



あり、緊張してしまうのではないかと懸念があったが、会場外のスピーカーから流れてくる吉村さんの発音は美しく、感情を込めた完璧な発表であるといえた。発表後の審査員との質疑応答もすべて中国語で答えている様子で、その成長ぶりに目を見張るものがあった。③のスピー





チコンテストでも、上位入賞である。

今年度は、昨年度に比べ大会実施数の大幅な減少、また実施方法が音源審査となる場合や、無観客のもとで実施する等コロナ禍の影響が大きかった。コロナ禍ということで、対面での練習が難しかったり、聴衆役の生徒に聞いてもらったりする機会の設定が、感染予防という観点から難しかった。そのような状況下においても、パソコンやスマホを活用し、なるべく多くの時間がさけるよう工夫した。担当教員とのオンライン練習は円滑に行うことができ、今後の練習の在り方にバリエーションを加えることができた。

## 「中国語会話」授業の展開

本校の「中国語会話」の授業は、1996年ごろから始まった。その当時は、中国語に親しむといったコンセプトで、授業としては教養主義的な内容を標榜していたと思う。その転機を迎えたのは、2012年の「アジア大洋州地域及び北米地域との青少年交流（キズナ強化プロジェクト）」への参加である。このプロジェクトは、外務省の進める多彩な国際交流プログラムである。その一つとして、当時の温家宝中国国務院総理からの2011年の東日本大震災被災地の高校生500名の中国訪問招請が接到了ことから、外務省が、“被災地青少年が隣国である中国に赴き、各被災地の復興状況について広く発信するとともに、中国の青少年との間で交流を深め、隣国との絆を深める”、といった趣旨のもと実施されたものである。本校では、学校改革の一つとして、SGH認定を目指し、学校をあげてグローバル事業に取り組んでいる時期であり、好機となった。本校からは生徒40名の参加が叶うことになった。被災地域の代表という任も帯びていたため、茨城県庁、牛久市役所、大津漁港にて被災状況を調査したり、職員や地元の方に、震災時の状況、復興状況、放射能汚染状況等を説明して頂いたりし、事前準備を周到に行って参加することとした。

上記の事業への参加以降、本校の国際交流は、それまで行ってきたオーストラリアにとどまらず、アメリカ、カナダ、イギリス、フィリピン、シンガポール、モンゴル等の多くの国々の青少年との交流へと変化していった。そうした状況下で、生徒自らが、自らの言葉でコミュニケーションをとりたいという、ごく当たり前の意欲が醸成され、学校として、グローバル事業の発展を企図し、英語教育のみに注力するのではなく、環太平洋の国々との交流を念頭において、中国語教育にも力を注ぐこととしたのである。2013年には、王彤先生が着任され、学外団体が主催する中国語のスピーチコンテストを中国語教育の中にうまく取り入れ、現在は、「全日本中国語スピーチコンテスト」出場の常連校になるまでになっている。

その後も、JENESYS2.0中国高校生訪日団短期招聘プログラム、ティーンエイジアンバサダー中国派遣及び招聘、アジア高校生懸け橋プロジェクト、北京外語大研修ツアー、台湾宜蘭縣中学生受け入れ、台湾留学フェア等、多くの事業に学校をあげて積極的に参加し、本校のグローバル教育の特徴として、中国語教育を据えつつ、多角的に育てているところである。「中国語会話」授業をさらに豊かにするために、学校設定科目「国際理解」を設定し、

中国の文化や習慣等幅広く学ぶ機会を作った。こうした授業と、語学としての中国語授業が相乗して、本校の奥行きのある中国語教育がなされている。

私の願いとしては、生徒と教師の血の通った授業、単なる語学習得のためのテクニカルなものではなく、その文化的背景も含め、深く理解し合えるような授業の場を提供し続けられたらよいと考えている。それは、もちろん座学にとどまるものではなく、積極的に“交流”することによってより豊かな実りを生むものである。“交流”こそが、発展の源泉である。コロナ禍の一日も早い終焉を願ってやまない。

# 「フランス語」授業実践報告

専任講師 Glenn Serviss (外国語科)

## 1. 年間目標

- ①初級フランス語の学習を通じて、外国語で楽しく、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。
- ②フランス語圏諸国を初めて訪れるのに最低限必要な表現（あいさつ・買い物・食事・注文等）を的確に理解したり、適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。
- ③フランス語特有なリズムやイントネーションなど、音声的な特徴、話す速度などを身に付ける。

## 2. 年間指導内容

- (1)受講者 29 名（高校 1 年生 7 名、2 年生 22 名）
- (2)使用教科書『ル・フランセ・クレール三訂版』（白水社）
- (3)年間指導計画（週 2 単位、今年度は毎週水曜日の 8・9 限に実施）

4 月	はじめてのフランス語の文字と発音、アルファベット、挨拶	10 月	フランス語スケッチコンクール：フランス大使館教育部によって発表される課題を演じる
5 月	・文字と語群の読み方 ・名詞の性と数 / 冠詞	11 月	・aller, venir の直説法現在 ・近い未来と近い過去
6 月	・主語になる代名詞 ・動詞 être と avoir の直説法現在形	12 月	・前置詞 (à, de) と定冠詞 (le, les) の縮約 ・finir, partir の直説法現在
7 月	・提示の表現 ・否定形、形容詞	1 月	・疑問代名詞、疑問副詞 ・voir, dire, entendre の直説法現在
8 月	・er 動詞の直説法現在 ・疑問形、疑問文に対する答え	2 月	・形容詞・副詞の比較級、副詞の最上級 ・特殊な比較級・最上級
9 月	指示形容詞、疑問形容詞、所有形容詞	3 月	faire, prendre の直説法現在

### (4)指導方法

実用的なフランス語会話に必要な感覚や自然な表現が、楽しみながら身に付くように、各授業の内容に合わせて、次の①・②・③を実践した。

- ① フランス語の紛らわしい音を聞き分ける練習・言い分ける練習
- ② スケッチのロールプレイによる実用的フランス語会話を実践するペア練習
- ③ フランスの歌の勉強やオンラインレッスンを通して、フランス語やフランス語圏の魅力をアピールする。

## 3. 成果と課題

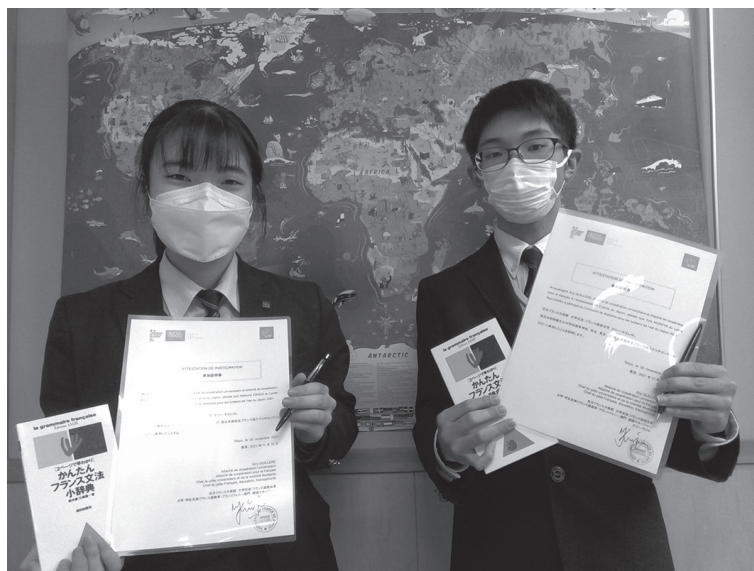
- (1) 第 16 回東日本高校生フランス語スケッチコンクール  
実施日：2021 年 11 月 20 日（土）※ビデオ提出  
課題：『WEEK-END』413 語  
参加者：一貫コース高校 2 年 2 名
- (2) フランス語の授業の評価（2022 年 1 月実施生徒アンケート結果、回答 28 名）
  1. Est-ce que tu aimes les leçons de français? (フランス語の授業は好きか)  
Oui, beaucoup (はい、とても) 25 名 / Oui, un peu (はい、少し) 3 名
  2. Qu'est-ce que tu as aimé dans les leçons de français? (授業のどんなことが楽しかったか、複数回答可)  
ゲーム式で学んだこと 9 名 / 友達とフランス語で会話すること 7 名 / 知らない単語を知ること 7 名 /



発音練習 2 名 / スピーチの練習 2 名 / 歌の録音提出 2 名 / 雰囲気 2 名

3. Qu'est-ce que tu voudrais suggerer à Glenn pour les leçons dans le futur? (授業のための提案)  
特にありません 12 名 / 読み方や発音練習時間を延ばす 4 名 / ゲームをもっとやりたい 3 名 /  
初級コースと上級コースに分ける 2 名 / ペアワークの時間を増やし 2 名 /  
フランスの音楽をもっと聞きたい 1 名 / フランス語の映画が見たい 1 名 /  
もっと文法を教えて欲しい 1 名 / もっと教科書を利用して欲しい 1 名 / パーティーがしたい 1 名

- 1) (右) スケッチコンクール参加者とフランス大使館から贈られた参加賞 (下) スケッチコンクールからのスクリーンショット [WEEK-END]



- 2) (左) オンラインレッスンのスクリーンショット「カナダ・ケベック州の楓の葉」

# 校内留学生交流会の報告

教諭 小澤幹生（外国語科）

## 1. 概要

期 間：2022年3月10日（木）～3月11日（金）  
場 所：東洋大学附属牛久高等学校内、及び生徒自宅  
参 加 者：高校2年特進コース3クラス 126名



## 2. 目的

本年度8月に行く予定であった豪州語学研修がコロナ禍のために実施できなくなり、その代案であった大阪での関西在住留学生との交流も、新型コロナウイルス感染者増加のために取りやめとなり、更なる代案として、東京近辺在住の留学生と英語で交流し、英語力向上への意識づけ、及び国際的な視野で様々な課題を見つけて解決方法を探るきっかけ作りをする。

## 3. 内容

株式会社 LbE Japan に依頼し、日本に留学中の外国人学生 19 名が来校して、以下のプログラムを実施。当初は完全対面の企画だったが、交流会の前の週に新型コロナの関係で全員が登校できず、オンライン学習に切り替えた日があり、交流会実施の週も生徒が登校できないおそれがあったため、急遽、2日間とも、午前はオンラインで自宅にいる生徒も参加可能とし、午後は対面式で、登校している生徒のみを対象とすることにした。

創意工夫を凝らした下記プログラムを通して、初対面の外国人と英語で意思を伝えあい、交流を深めた。

### <プログラムスケジュール>

#### Day1

09:00 オリエンテーション (20 min)

- ・ファシリテーターよりプログラム概要、目的説明、プログラムに大切な4つのルール共有  
[4つのルール: Don't be shy! Speak in English! Mistakes are OK! Leave no one behind!]
- ・ファシリテーター・サポーターの出身国当てクイズ

09:20 ブレイクアウトルームへ移動し、アイスブレイク (15 min)

1. グローバルリーダーの出身国当てクイズ
2. 簡単に自己紹介（グローバルリーダー／参加者）しよう。
3. 楽しいゲーム活動を通じて、コミュニケーションに慣れよう。

09:40 相互紹介 (30 min) ・クイズ形式の活動を通じて、留学生リーダーと相互紹介しよう。

10:20 世界探検 (35 min) ・グローバルリーダーが母国文化や生活スタイルを紹介します。

テーマ:「留学生の母国の生活と文化」グローバルリーダーによるプレゼンテーション (10min x 3)

10:55 デジタルポスターメイキング (65 min) ・グローバルリーダーについて集めた情報をもとに、グローバルリーダーについて紹介するポスターを Google Slide で作成しよう！ テーマ:「私たちのグローバルリーダー」

12:00 デジタルポスター発表 (25 min)

- ・5グループずつのブレイクアウトルームに分かれて、作成したポスターについてグループで発表しよう！

13:30 レクリエーション (15 min) ・グローバルリーダーとの楽しい活動を通じて、親睦を深めよう。



13:45 グループスキット準備 (75 min) テーマ:「異文化理解 (多様性体験)」

- 役割分担をして下記のテーマで寸劇を作成しよう。2日目の発表会に向けて仲間と協力して準備しよう!

「もしもグローバルリーダーが高校に転入してきたら」・・・グローバルリーダーが皆さんの学校に転入してきたらどのような困難があるのでしょうか?そして、どんな準備をして迎え入れることができるかを考えて寸劇にまとめよう。

「もしも私たちがグローバルリーダーの母国へ留学/旅行したら」・・・グローバルリーダーの母国へ皆さんが留学したら、どのような困難や魅力に出会うのでしょうか?そして、どのように困難を乗り越えることができるのか寸劇にまとめよう!

15:00 1日目終了

Day2

09:00 ウォームアップ (10 min) • 身体と英語を使ったゲームを通じて緊張をほぐそう!

09:10 移動・ブレイクアウトルームへ移動

09:15 参加者発表 (30 min) テーマ:「SDGs Presentation」研究してきた SDGs について、1人2分以内で。

09:55 グローバルリーダーによる発表

テーマ:「SDGs in my country」 • グローバルリーダーの母国の現状や課題について SDGs の観点から紹介します。日本と比較しながら、違いや共通点に目を向けてみよう。

10:25 グループプレゼンテーション準備 (90 min) テーマ:「Design Our Future “実現したい未来 (社会)”」

• グローバルリーダーの母国の社会課題や、みなさんが事前に調べた SDGs について振り返り、“実現したい未来 (社会)”について考え、スライドを作成しよう!そして、グローバルリーダーと協力して、理想の未来を実現するために自身で挑戦していきたいことをまとめ、発表の準備をしよう!

11:55 グループプレゼンテーション (30 min) テーマ:「Design Our Future “実現したい未来 (社会)”」

• 5グループずつ3部屋に分かれて発表 1グループ3分 • 私たちが実現したい未来 (社会)、目指す未来実現のために解決したい課題

12:25 オンライン修了式

13:30 グループスキット準備 (40 min) • 1日目に引き続き、準備して、リハーサルしよう!

14:10 グループスキット発表 (40 min) テーマ:「異文化理解 (多様性体験)」 • 5グループずつ3会場に分かれて発表 「もしもグローバルリーダーが高校に転入してきたら」「もしも私たちがグローバルリーダーの母国へ留学/旅行したら」

14:50 修了式 (10 min) • 代表グローバルリーダーによるメッセージと修了証の授与 • 代表生徒による挨拶

15:00 プログラム終了

#### 4. 成果と課題

	① そう思う。	② どちらかという と、そう思う。	③ どちらかとい うと、そう思わ ない。	④ そう思わな い。
1. 今回の留学生交流で、海外から来た留学生と英語で話すことを楽しむことができた。	50.9%	39.6%	3.8%	5.7%
2. 今回の留学生との交流を通して、世界に対する自身の視野が広がった。	39.6%	48.1%	4.7%	7.5%
3. この交流がきっかけで、もっと英語を勉強しようと思った。	46.2%	39.6%	6.6%	7.5%
4. この交流がきっかけで、もっと国際情勢に関心を持つと思った。	35.8%	47.2%	6.6%	10.4%

【事後アンケート結果】（アンケートは Google Forms による。回答数：85 名）

##### 【参加者感想の抜粋】

オンラインだと意思疎通が取りづらい。対面のほうがわかりやすかった。／やっとならで話せてとても楽しかった。／最初は不安だったが、話していくうちに自信がついてきて、楽しく参加できた。／コミュニケーションをとることの大切さを学んだ。語彙力を上げ積極的に会話していこうと思った。／今日は発表がたくさんあって全てはうまく行かなかったけど英語に対する意欲が上がったので良かった。／外国人のフレンドリーさや、自分の意見の伝え方など学ぶことが出来た！英語を話すのは難しかったけれど、すごく楽しかった！大学生になったら本気で留学したい。英語をもっと話せるようになりたいと思った！

##### 【課題】

生徒達は午後の対面での交流を非常に楽しんでくれた。9 割の生徒が「楽しめた」という感想だった。一方、1 割の「楽しめなかった」という生徒の多くはオンライン参加者であり、折角午前中は対面を犠牲にしてオンラインにしたのに、残念なことである。全てを対面にしていたならば、参加者はさらに楽しめたはずだが、感染防止のために在宅を余儀なくされた生徒が全く参加できないのも気の毒なことである。コロナ渦では、登校している生徒の満足度と、在宅生徒への配慮とのバランスをどうとるのが悩ましいところである。



# 英語インタラクティブフォーラム東洋カップ2022 校内大会

教諭 井上 博人 (外国語科)

期 間：2022年3月14日(月) 1限～7限

場 所：本校

参加者：中高一貫コース中学生(199名)、中高一貫コース高校生(107名)

グローバルコース高校1、2年生(122名)

## 1 目的

- 1 広い視野から郷土や国家、国際社会を理解し、その発展のために貢献しようとする意欲と態度を育てるとともに、英語を使って双方向的かつ論理的にコミュニケーションを図る力を高め、東洋牛久グローバル教育を担う生徒の育成を図る。
- 2 本来であればグローバル、中高一貫コースは海外語学研修などを実施し、英語力を飛躍的に高める時期であるが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となっている。これに代わる学習としてこの大会を位置付け、英語力の向上を図る。
- 3 中学1年生から高校2年までが同じ競技に参加することによって、ともに学び合う姿勢を養う。

## 2 内容

### ①日程

	スケジュール	場所	内容
SHR	各クラス(8:50～) 出席確認	各HR	
1限	開会式(開始9:20～) 各コンテスト会場への移動	講堂	校長挨拶 審査員紹介 大会説明 東洋カップ憲章朗読 諸注意
2限	第1ラウンド	各教室	Interactive Forum
3限	第2ラウンド	各教室	Interactive Forum
4限	第3ラウンド	各教室	Interactive Forum
昼			各場所で昼食(HRには戻らない)
5限	第4ラウンド	各教室	Interactive Forum 各教室復元後移動
6限	各コンテスト会場復元後移動 全体会	講堂	各審査員からのコメント 英語コンテスト外部大会出場者のスピーチ披露など 振り返りシート記入など (結果集計 閉会式準備)
7限	閉会式 各HRへ移動	講堂	審査員長 講評 結果発表 表彰 上位者のデモンストレーション 写真撮影 教室へ戻りアンケート・振り返りシートの記入

- ②英語インタラクティブフォーラム形式：①中学の部 英語インタラクティブフォーラムの大会形式とする。  
1回5分。3ラウンドを実施する。ラウンドごとに参加生徒一人ひとりに得点をつけ、メンバーの得点を合計し、6つのグループで競い合う。個人賞では学年ごとに取得点数が多い順に個人賞を授与する。
- ②高校の部 4人1組で指定されたテーマについてディスカッションを行う。4人の組み合わせは、高2、高1、コースなどを考慮してバランスをとり、話し合いがスムーズに行われるよう配慮する。開会式で対戦表

を配布し、あらかじめ賛成側（2名）、反対側（2名）を決めておく。決められた時間内にテーマに沿ってディスカッションをし、参加者一人一人にスコアがつけられ、競い合う。ディスカッションの時間は6分を予定。各会場で6組行う。待機生徒は話し合いを聞き、用紙に記入し、賛成側、反対側のどちらが優勢に話を進めたかを判断する。審査員は審査用紙に参加者一人ひとり評価し得点をつける。

### ③テーマ

中学の部 Music, Sports, Subject, Ushiku City, Friends, Hobby, Season, Food, My school, My dream

高校の部：

R1	Music Season Sports Food Dream など
R2	Country or City
R3	Japan should prohibit the use of smartphones for people under 15 years old. 「日本は中学生（15歳）以下のスマートフォンなどの使用を禁止すべきである。是か非か。」
R4	Japan should stop generating Coal-fired power and use other power generations instead. 「日本はすべての石炭火力発電を代替発電に切り替えるべきである。是か非か」

## 3 成果と課題

英語インタラクティブフォーラム校内大会は、もともと茨城県が主催する大会形式をもとにして作られたものです。中学校の代表生徒が英語インタラクティブフォーラムにて牛久市大会、県南大会、県大会と活躍したことを受けて、教育的価値が高く、また、誰もが参加できるという特徴を活用し、その内容、方法などを本校の英語教育に取り入れ、発展させたものです。今回は中学生の部と高校生の部に分けて、同時開催をしました。お互いに学び合い尊重し合う姿を見ることができました。前年度からの課題として参加人数、審査員、教室数の調整がありました。審査委員の確保については、高校3年生が行うことにより解消することができ、教室数も開催時期を3年生の卒業式後に設定することにより解消することができました。そのことが参加人数も増やすことができました。今後は教育効果が高い大会であるため、付属校や他校との共同開催が実施することができるとさらに効果があると思われまます。

今回はコロナ感染対策をしつつ開催することができました。この状況が今後も続くと予想されます。この大会の成功を今後も生かすべきであると考えます。





# エンパワーメントプログラム

教諭 吉田 敦子 (外国語科)

期 間：2021年12月13日(月)～17日(金)

場 所：本校

参加者：中高一貫コース 高校1年生 55名

## 1. 目的

- (1)海外の一流大学に在籍している大学生、大学院生と英語でディスカッションすることでアカデミック英語に触れ、英語力の向上を図る。
- (2)グローバル社会で必要とされる資質であるポジティブシンキング、アイデンティティ、リーダーシップをテーマとして設定した。また、貧困問題と同時に対極にあるフードロス、あるいは環境問題などの世界の諸問題について議論することにより、グローバル社会で必要とされる知識やコミュニケーション能力を身につける。
- (3)世界各国からの留学生と様々な問題について学びながら、異文化に触れる機会を持つと同時に、課題探究のテーマ設定、内容改善に役立て、次年度に集大成となるそれぞれの課題を深めていく。

特に該当学年である4期生は、中学校3年次より海外留学生との交流が国内外ともに閉ざされたまま2年近くが経過しており、学習の動機づけとする位置づけも大きな意味を持っている。



## 2. 内容

	12月13日(月)	14日(火)	15日(水)	16日(木)	17日(金)
9:05～	Preparation				
9:30～ 10:20	Opening Ice breaking	Warm up Small Discussion (1) Positive Thinking	ウォームアップ Small Discussion (2) My Identity	ウォームアップ Small Discussion (3) Leadership	Warming up プロジェクト (3) 世界に目を向ける SDGs
10:30～ 11:20	Goal Setting Activity	Small Discussion (1) Positive Thinking	Small Discussion (2) My Identity	Small Discussion (3) Leadership	プロジェクト (3) 世界に目を向ける SDGs
11:30～ 12:20	英語で話してみよう (1) アクティブに質問する	英語で話してみよう (2) グループリーダーについて	英語で話してみよう (3) プレゼンをする 質問を受ける	Small Discussion (4) 将来の目標	プレゼンテーション準備
	Lunch Break				
13:30～ 14:20	効果的なプレゼンテーション	プロジェクト (1) 地域貢献	プロジェクト (2) フードロス	Small Discussion (5) 学ぶことの意義	一人一人によるプレゼンテーション
14:30～ 15:20	効果的なプレゼンテーション	プロジェクト (1) 地域貢献	プロジェクト (2) フードロス	プレゼンテーション 原稿の作成	Closing Ceremony
15:30～ 15:55	Reflection	Reflection	Reflection	Reflection	Reflection

### 3 成果と課題

#### プログラム終了後のアンケート調査

- 1 今回のプログラムはどうでしたか。  
非常に満足 (63.6%) 満足 (36.4%) 期待したほどではない (0%) 不満足 (0%)
- 2 プログラムのレベルはどうでしたか。  
簡単 (1.8%) どちらかといえば簡単 (7.3%) ちょうど良い (36.3%) どちらかと言えば難しい (40.1%)  
難しい (14.5%)
- 3 レッソンの時間は適切でしたか。  
短い (1.6%) どちらかと言えば短い (7.5%) ちょうど良い (70.9%) どちらかと言えば長い (14.5%)  
長い (5.5%)
- 4 ファシリテーターは参加しやすい雰囲気を作っていましたか。  
そう思う (78%) どちらかと言えばそう思う (22%) どちらかと言えばそう思わない (0%) 思わない

#### プログラム前後の気持ちの変化について

(%)

	そう思う		どちらかといえば そう思う		どちらかといえば そう思わない		そう思わない	
	プログラム 前	後	前	後	前	後	前	後
英語をもっと勉強したいと思う	23.1	50.9	50	41.8	17.3	7.3	9.6	0
英語を話すのが楽しいと思う	9.6	49.1	34.6	45.5	38.5	5.4	17.3	0
海外に行ってみたく なった。	28.8	56.4	25	25.4	21.2	18.2	13	0
世界のことをもっと 知りたいと思う	17.3	40	32.7	45.5	26.9	15.5	23.1	0
様々な国の人と積極 的にコミュニケーション を取りたいと思 う	17.3	49.1	28.8	43.6	38.5	7.3	15.4	0
将来の夢や目標を見 つけたい	32.7	63.6	34.6	32.7	19.2	3.6	13.5	0

感染防止の観点から予定していたインテンシブレッスンが延期となり、ようやく実現したエンパワーメントプログラムであった。アンケート結果から生徒たちの満足度は非常に高いことがわかる。参加した全員が満足であると答えているが、内容は十分負荷のかかるものであり一人ひとりがチャレンジ精神をもって臨んだことが伝わる結果である。また、今回は担当グループごとにファシリテーターとなる留学生にウェルカムメッセージを作成し始めから距離を近く感じられるよう試みたが、これも効果を上げていたようである。

事前事後のアンケート結果では、生徒がこのプログラムから大きく気持ちを動かされたことが伝わってくる。「英語をもっと勉強したい」「海外に行ってみたくなった」「世界のことを知りたい」という生徒がほぼ倍増しており、彼らの知的好奇心が刺激されたことが分かる。また、「英語を話すのが楽しいと思う」に至ってはほぼ5倍増となっている。オンライン英会話等工夫を重ねてこの2年間を過ごしてきたが、彼らの「英語を話す機会がほしい」というほとぼる思いの表れと言えるだろう。また、指導助言にあたる留学生は日本の大学に在籍しているアジア、アフリカ、ヨーロッパ出身の優秀な大学院生である。このプログラムから自分の将来に思いを巡らせた生徒が倍増したことも大きな成果であった。次年度の研修につなげていきたい。

# All English Days (中学校1年)

教諭 川上 薫 (外国語科)

期 日 : 2021年11月4日(木)、5日(金)

場 所 : 本校

参加者 : 中学校1年生70名

外国人講師 : 7名



## 1. 目的

本研修の目的は、英語をたくさん使い、自由に自分の意見を発する積極性を養い、コミュニケーション能力を向上させることである。オールイングリッシュの授業は英語に触れる量を増やせるという点で、生徒の英語力を格段に伸ばすことができる手段である。自分の意見を英語でネイティブの先生に伝えることができたという喜びを味わうことにより、コミュニケーション能力の向上に繋がると考える。

## 2. 内容

英語に関する lesson を受けた後に各班で決めたテーマに即して Skit 発表を行った。次の日に振り返りとして、担当講師の方へ「Thank you letter」を書いて送った。

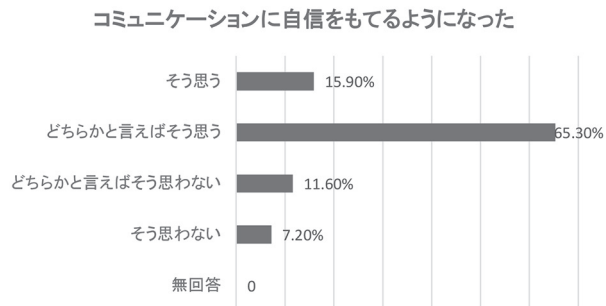
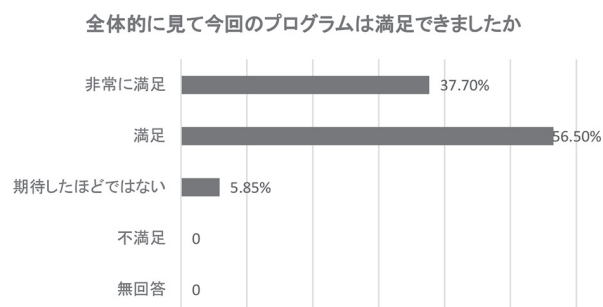
Day1 11月4日(木)

	Lesson 1	Lesson 2	Lesson 3	Lesson 4	Lesson 5
DAY 1	Opening ceremony	異文化理解①	Role play ①	Role play ②	Skit 準備

Day2 11月5日(金)

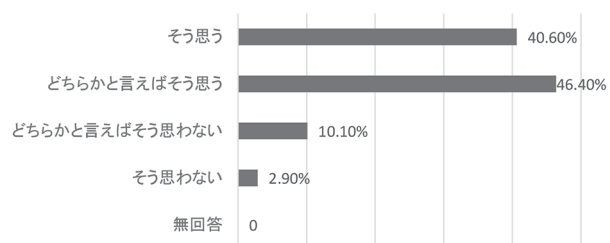
	Lesson 6	Lesson 7	Lesson 8	Lesson 9	Lesson 10
DAY 2	Warm up 異文化理解 2	Fun time	発表準備	発表練習	Skit 発表 Closing Ceremony

## 3. 生徒の感想 : 生徒たちのアンケートより

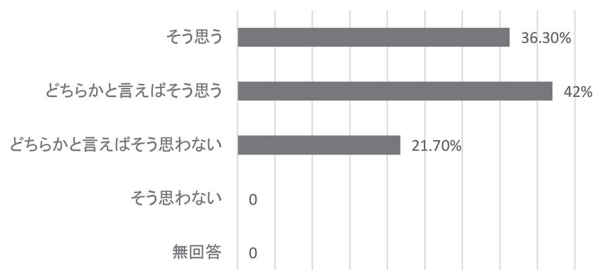




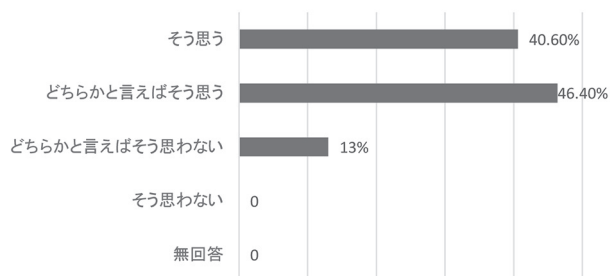
様々な国の人とコミュニケーションを取りたいと思うようになった



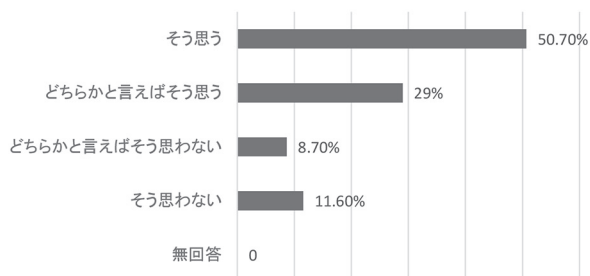
英語をもっと勉強したいと思うようになった



世界のことを知りたいと思うようになった



海外に行ってみたいと思うようになった



#### 4. 成果・課題

アンケートの結果を見てもわかる通り、経験豊かな外国人講師の方たちとの交流を通して、英語を苦手としていた生徒たちも、英語を使うことは「楽しい」という認識を得たことは、今後の英語学習により影響を与えることになると思われる。英語を話さなければならない空間で過ごすこの2日間の体験は、生徒たちにとってとても貴重であった。この All English Days を通して、今後の語学学習の意欲が増したように思われる。



# 英語落語発表会（中学校2年）

教諭 麻生 裕二（外国語科）

期 日 : 2021年11月12日（金）

場 所 : 本校

参加者 : 中学校2学年81名

## 1. 目的

- ① 英語学習：英語学習に対して興味・関心を深め、グローバル人材育成に必要な自己表現力・資料収集力・情報発信力などの諸能力を育成する

## 2. 内容

### (1) 事前学習

国際理解の授業時間などを使い、英語で落語を演じる練習を行った。その際、単なる発表で終わることのないように自己表現力を磨くことにも努力した。

### (2) 日程

2021年11月12日（金）

9:30～10:15	第1部 生徒発表
10:20～11:05	第2部 生徒発表
11:10～11:55	第3部 生徒発表
12:00～12:45	第4部 生徒発表

### (3) 事後学習

- ① 振り返り作文・掲示 英語落語の発表を振り返り、各自の感想・反省を教室内に掲示した。



### 3. 成果

#### ① 英語運用能力の向上

英語での発表を通して英語学習に対する興味・関心を深めることができた。流暢に話せるように粘り強く練習し、英語力の向上につながった。

#### ② 自己表現力の向上

聞いている人にかにわかりやすく伝えるか身振り手振りや表情なども含め練習し、自己表現力の向上につながった。

#### ③ 生徒の感想

文章が長かったので、全部覚えられるか心配だったが、英語落語前にしっかり覚えられて良かった。自分が発表したものは、オチが分かりづらいお話だった。どうやったら、聞いている人に話の内容を理解してもらえるか考えるのがとても難しかった。頭の中で台本を思い出しながら、身振り手振りを入れるのがとても大変だったがしっかりできた。

浴衣を着付けるのも難しかったけれど、きれいに着せることができたかなと思った。準備期間も本番もずっと忙しくて大変だったが、楽しくできた。

### 4. 課題

昨年に引き続き、コロナ禍により創造祭での発表ができず、保護者への発表会が平日開催となってしまった。本来であればもっと多くの方の目を通して感想を生徒にフィードバックしたかったと考えている。





# 英語プレゼンテーションフォーラム・高等学校の部

教諭 井上 博人 (外国語科)

期 間：2021年8月19日(木)

場 所：動画提出

参加者：高校1年生2名

担当者：井上博人、マーロン・バクラーン

## 1 目的

英語でのプレゼンテーションを通して、広い視野から郷土や国家、国際社会を理解し、その発展のために貢献しようとする意欲と態度を育てるとともに、ICTを活用しながら、英語を使って双方向かつ論理的にコミュニケーションを図る力を高め、「国際県・茨城」を担う生徒の育成を図る。

## 2 内容

本大会は対面で8月に実施する予定であったが、コロナ感染拡大のため延期となり、動画を提出して審査をする形式となった。本校のグループはB部門に参加した。B部門は、ア 演 題:「学校紹介」、「地域紹介」、「授業で学習したことの紹介」のいずれかの内容について 演題を設定し、7分から10分の間でプレゼンテーションを行うことにあった。参加生徒は牛久についてまとめて発表した。以下は発表原稿である。

FU: Hello everyone. It's good to see you all here. Thank you for giving us this kind of opportunity. I am pretty sure you are all aware of this number. 47. This refers to the 47 prefectures in Japan.

According to Asahi Shimbun in 2020, Ibaraki ranks 42nd in the ranking of the most attractive prefectures.

So, I think people may have begun to realize the glamor of Ibaraki. For 7 consecutive years, Ibaraki is known as the LEAST ATTRACTIVE prefecture all over Japan.

Today, we are going to prove you wrong as we will take you on a virtual tour around my hometown. My name is Yota Ishida. My name is Riko Ueta. My name is Kei Kabaya. My name is Sora Miyazaki. And my name is Fu Kaneko.

We will take you on a virtual tour as we present to you. A GLIMPSE OF THE BEAUTY OF USHIKU CITY.

Ushiku city, where our school is located, is also one of the cities in Ibaraki.

The objective of this presentation is to introduce the great Instagram-worthy spots of Ushiku.

Ushiku City is located in the southern part of Ibaraki Prefecture.

Ushiku has a lot of wildlife and if you are lucky, you might be able to see the pheasants.

By the way, what image do you have of the city of Ushiku?

Probably the first thing you imagine is the Ushiku Buddha, right?

As you know, it is a famous monument in Ibaraki.

But, besides the Buddaha, Ushiku has many other great places that many people don't know about.

So, we'll show you four wonderful areas and characters of Ushiku that will change your image.

By the end of this presentation, we will guarantee that you will want to visit the city Ushiku.

YOTA: We are going to talk about the Ushiku swamp.

Ushiku swamp is located between Ryugasaki City and Ushiku City.

• This is a very large swamp, about 75 times the size of Tokyo Dome.

There are no large buildings around the Ushiku swamp. So you can enjoy the beautiful scenery anytime there.

Look at this picture.

- In the early morning, you can see the illusory scenery as shown in this photo. This view may be perfect to see with the person you love!

- Also, Ushiku swamp has many legends of Kappa. Kappa is a legendary youkai which is believed to be living all over Japan. Kappa is not just scary, it has an emotional story behind its unique character. By the way, Enryo Inoue, the founder of our school, was investigating kappa as well. He thinks of kappa as being naughty. But, Kappa in Ushiku are said to be very kind. For example, when you rescue a kappa from a trap, it will bring goodness to you. From these legends, Kappa has become a local character of Ushiku.

This character is called Kyu-chan. Kyu-chan is painted all over the city. Please look around for it when traveling in Ushiku. That could be one of the fun things to do in Ushiku City.

RIKO AND YOTA: Riko: Thank You Yota, it was very interesting!

By the way have you ever seen kappa? Yota: No, I haven't but I'd love to see one! By the way, this time, let's listen to Riko as she will talk about the beautiful iris garden.

RIKO: This picture is Ushiku city Iris Garden.

Firstly this park is not well known to the younger generation, but Iris garden has various charms!

In this garden there are about 200 kinds of iris. And in total 20,000 irises are blooming on the site of 8,000 square meters of total area. It is big as  $\frac{1}{6}$  of Tokyo Dome.

- They are colorful and you can enjoy the charm of the blooming flowers with purple and yellow. Also, the color of its flower is pop so it is an Instagrammable Spot!

I recommend you take a picture in front of a lot of flowers!

Every year flowers begin to bloom from June and we can enjoy the first bloom around the middle of June. Also you can enjoy the full bloom until the end of the month.

- In addition, you can observe it freely and also it is open 24h so you can watch flowers without minding the time as it is a municipal park.

Lastly, if you have a chance to go to Ushiku city, I think this park is the best place to make a stronger connection with other people by contemplating and reflecting about relationships with others. The place can make you fall in love with Ushiku City. If you have problems, it is good to go there by yourself on the weekend to calm your worried heart. I think the view will change depending on who you go with. So we recommend you to visit this park several times to see various views.

KEI: Thank you Riko.

First, let me introduce this number, 303. What do you think of this number? This number is the number of wineries in Japan.

- This building's name is Ushiku Chateau.

- It was built in 1903.

- Among them, Ushiku chateau is the first winery in Japan.

- Kamiya Denbei, who founded Ushiku Chateau in the Meiji era. He is also the founder of the famous "Kamiya Bar". This winery could handle everything from production to shipping.

Now, there are restaurants and wine shops there.

- Grapes are still grown, and beer made from grapes are sold there.

- Since 2008, it is known as an important cultural property in Japan.

In addition, it is visited by over 400 thousand people every year.

- Recently, this building was also used as a passing point for the torch relay for the Tokyo Olympics.

If you want to visit the chateau, you should go in spring or winter.

This building is lit up for a limited time in spring and winter nights.

- In spring, you can see the outside of the building lit up with beautiful cherry blossoms.
- In winter, when there is a lot of snow, it looks like a white castle.
- I'm sure that when you visit the chateau, you want to take lots of pictures of the beautiful buildings.

SORA: Thank you Kei. By the way, do you know what the tallest bronze Buddha statue in the world is? If you're thinking about the Ushiku Buddha, you're definitely right. How tall do you think it is?

- The height of the Great Buddha is 120 meters. That's about the same height as a 30-story building. When I actually visited there, I was surprised to find that it was much higher than I had expected.
- Also, located in the Pure Land Garden is a small animal park. In a small animal park, you can interact with animals. And you're able to enjoy flowers all seasons long.
- You can experience various things inside the Great Buddha. For example, you can visit five stories, including sutra and observation.
- Ibaraki is said to be less attractive than other parts of Japan, but 480 thousand people visit every year to see the Great Buddha. And it is a popular place for foreigners to visit as well. In addition, you'll get some awesome Instagram-worthy photos there.
- Using perspective, you can take a picture that looks like the Great Buddha is pinching an airplane, and that the Great Buddha is sending out shock waves in the sunlight. So please try and go to see the Great Buddha and take interesting photos that will be Instagram-worthy when you have a chance.

FU: Has the image of Ushiku city changed after our presentation? As you can see from our slide show, Ushiku city has many sightseeing spots and beautiful places filled with nature like the ones we mentioned earlier. You should visit this place at least once in your life to experience the great nature in Ushiku city! Thank you.

### 3 成果と課題

コロナ禍での休校措置などで大会が延期され、当初は対面での発表は行えず、プレゼンテーション動画の提出をして審査を受けることとなった。本校はB部門に応募し、見事第2位の県議会議長賞を受賞することができた。大会が延期されたことにより、プレゼンテーションの内容を再度吟味し、練習する機会も増えた。生徒たちは大会出場への意欲を衰えさせることなく練習することができた。今後はできるだけ多くの生徒たちがこのような大会に参加することによって、英語でのプレゼンテーション能力を高めることができるようなシステムを構築することが課題である。





# 令和3年度第58回茨城県高等学校国際教育英語スピーチコンテスト

教諭 井上 博人（外国語科）

期 間：2021 年 6 月

場 所：動画の提出

参加者：高校 1 年生 1 名

担当者：吉田敦子

## 1 目的

海外に関する知識と国際理解についての知識を深める。

## 2 内容

国際理解、国際交流、国際協力、国際ボランティア活動に関するもの。演題は自由。高校生としての主張を含み、未発表であること。

## 3 成果と課題

大会参加までの準備期間が少なかったため応募者の限られた。参加生徒が中高一貫コースの生徒であったため、中学校で行ったプレゼンテーションを元にして原稿作成を行ない提出まで間に合うことができた。今後は募集、選考、発表または提出までの期間を余裕を持つことができるよう、各団体がいつごろどのようなコンテストを開催しているのかを把握する必要がある。

# 第70回チャールズ杯争奪全国高校生英語弁論大会

教諭 井上 博人（外国語科）

期 間：2021 年 8 月

場 所：録音した音声データ提出

参加者：高校 1 年生 1 名

担当者：吉田敦子

## 1 目的

本校生徒の英語による表現力を伸ばし、英語学習に対する関心を高めるとともに、社会的及国際的視野を持つ人材の育成に資する。

## 2 内容

チャールズ杯は全国の高校生を対象とした英語弁論大会です。1952年から始まり、今年で71回目の開催となる歴史のある大会です。この大会に中高一貫コースの生徒1名がスピーチ原稿と音声提出した。以下はスピーチ原稿です。

## It's OK to be negative

KOTAKE Nanami  
Toyo University Ushiku High School

I have something to tell you, who are struggling with negativity right now. Please listen to my story for a moment. Ever since I was a child, I've had a very negative mindset. Every time I made a mistake, I would blame myself too much, compared myself to others and felt depressed, which made me feel I hated myself. Then, I was so scared and in pain because all the voices around me always sounded like they were speaking ill of me. I was always wondering what I lived for, asking myself if everyone would be happier without me.

Eventually, I began to suffer from insomnia due to excessive stress, and my health began to deteriorate. I was filled with a desire to die, and I looked up on the Internet for many ways to die. But in the end, I couldn't do it because I didn't want to be a burden to the people around me when I died. My mental state was already in its terminal condition.

But why am I able to get out of this state and give a speech now? There are many reasons for this. First, I am now able to listen to the people around me. In the past, I would not listen to any people when I failed and felt depressed. But after listening to those voices for a bit, I was able to think about why I made mistakes instead of staying negative. Yes, I was able to look at things objectively instead of subjectively. As you can see, even negative thinking can be beneficial if you just change your way of thinking a little. Of course, there are various ways of thinking.

For example, let's rephrase the idea of being afraid of failure and thinking ahead in a positive way. Thinking ahead can be a very good thing because it gives you more ways to avoid risks. In short, negative thinking is not purely bad, but has many advantages. So if you have the same problem, try this idea. Just put in mind that there will always be dark days, but remember to find the light in those moments.

Also, don't hesitate to seek help from healthcare professionals. I used to have a lot of trouble with sleeping due to stress, but after the medication was prescribed, I felt much better. Also, my emotional state became a little more stable. I think it takes a lot of courage to go to clinic for mental health problems, as it is difficult to gain the understanding of our parents and of others. It is often said that mental problems are for those who are spoiled, but it's not like that at all. It's a disease with a proper name, so it's not your fault. There is always a solution.

However, in today's society, many people have come to have mental illnesses such as depression, which sometimes bring people to committing suicide. Many young people end their lives because they are overwhelmed by the painful feelings they cannot control. According to the data from the MPD, the number of suicide among young people in 2020 is 25% more than that of the previous year. Have you ever wondered if there is anything we can do to stop this?

Now I have a dream. I want to become a teacher and lead children to a happy life by supporting their mentality. I believe that I can be the most sympathetic to their feelings because I've experienced painful things myself. It's something I never would have thought I could do before.

If you just change your way of thinking a little, life will seem more enjoyable than you think. Remember that having no control of the things around us is not our fault, but having no control of what is happening inside

us is something that we have to work on. Start with something small. Don't blame yourself any more. You've worked hard enough, now it's time to give your mind a rest and love yourself a little more. Now the question is, "When is it positive to be negative?" Well, it is when you assess yourself, and you do something about it. Let's say this together, "It's okay to be negative, but don't stay there for the rest of your life."

### 3 成果と課題

英語の授業や生活の中からテーマを見出し英語でのスピーチ原稿作成、修正し、音声を吹き込むまで行うことは大変な作業である。それを最後まできちんとやり遂げることにより英語力を向上させることができたに違いない。今後の課題としては、このような機会にすぐに挑戦することができるよう英語でのスピーチ、プレゼンテーション活動を計画的に頻繁に行うことが重要である。日々の表現活動を行うことによって大会へ参加しやすくなるでしょうし、自ずとスピーチの質が向上するはずです。



# 令和3年度第11回茨城県ローズ杯 高校生英語ディベート大会 参加報告

教諭 井上 博人 (外国語科)

期 間：2021年11月3日(水)  
場 所：本校 (オンライン)  
参加者：高校2年生2名、1年生2名  
担当者：井上博人

## 1 目的

広い視野から郷土や国家、国際社会を理解し、その発展のために貢献しようとする生徒の意欲・態度を育てるとともに、英語による実践的なコミュニケーション能力を高めることで、「国際社会で活躍できる人材」の育成に資する。

## 2 内容

今年の論題は Resolved: That the Japanese Government should relocate the capital functions out of Tokyo.

(日本政府は、首都機能を東京の外に移転すべきである。)

	スピーチ	時間	肯定	否定
1	Affirmative Constructive Speech(肯定立論)	4 min.	A1	
	Preparation Time(準備時間)	1 min.		
2	Questions from the Negative(否定質疑)	2 min.	A1	N4
3	Negative Constructive Speech(否定立論)	4 min.		N1
	Preparation Time(準備時間)	1 min.		
4	Questions from the Affirmative(肯定質疑)	2 min.	A4	N1
	Preparation Time(準備時間)	2 min.		
5	Negative Attack(否定アタック)	3 min.		N2
6	Questions from the Affirmative(肯定質疑)	2 min.	A3	N2
7	Affirmative Attack(肯定アタック)	3 min.		
8	Questions from the Negative(否定質疑)	2 min.	A2	N3
	Preparation Time(準備時間)	2 min.		
9	Affirmative Defense(肯定ディフェンス)	3 min.	A3	
10	Negative Defense(否定ディフェンス)	3 min.		N3
	Preparation Time(準備時間)	2 min.		
11	Affirmative Summary(肯定総括)	3 min.	A4	
12	Negative Summary(否定総括)	3 min.		N4



## 3 成果と課題

難しい論題で自分たちの主張の根拠となるエビデンスを示さなければならないルールとなっている。準備に多くの時間を割かなければならないが、取り組んだ生徒の英語力は飛躍的に向上させることができる。このような活動を校内でもできるようにシステムの構築が課題である。

# 第4回茨城県パラメンタリーディベート大会

教諭 井上 博人 (外国語科)

期 間：2022年1月30日(日)

場 所：本校 (オンライン)

参加者：高校生3名

担当者：井上博人

## 1 目的

全国の高校生に、即興型であるパラメンタリーディベートの試合を行う機会を提供することにより、グローバル社会で活躍するのに必要とされる英語による論理的発信能力、問題発見解決能力、クリティカル・シンキング、コラボレーション力、グローバル課題や時事問題についての基礎知識、そして緩急やジェスチャー、ユーモアなどを意識した聞き手目線の分かりやすいパブリック・スピーチ力を養う。また、参加者間の交流を図り、共に学び合う関係を作る。

## 2 内容

World School's Debating Championships(WSDC) Style(但し本大会用に修正を加えたもの)による英語ディベート大会である。本校生徒が3名で望み、茨城県内の高校とオンラインで対戦した。

## 3 成果と課題



今回は即興型(パラメンタリーディベート)ディベート大会に挑戦した。複雑なディベート形式を取らず、交互にスピーチをし、そのスピーチの最中に質問をすることができる形式である。エビデンスを示す必要がないため、誰でも参加することができる形式である。多くの生徒たちが経験することができるためには、スピーチ時間を短縮し、論題を平易なものから始めれば、授業内で扱えることができるであろう。英語表現力を高める活動の普及が今後の課題である。

# 第7回PDA高校生即興型英語ディベート全国大会

教諭 井上 博人 (外国語科)

[スピーチの順番および時間]

0) 準備時間【20分】

1) 1st Affirmative Speaker【5分】

2) 1st Negative Speaker【5分】

3) 2nd Affirmative Speaker【5分】

4) 2nd Negative Speaker【5分】

5) Government Whip【5分】

6) Opposition Whip【5分】

7) Opposition Reply【4分】

8) Government Reply【4分】

期 間：2021年12月25日(土)、26日(日)

場 所：本校 (オンライン)

参加者：高校生3名

担当者：井上博人

## 1 目的

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会(PDA)では、グローバルに活躍する人財育成の一手法として、英語での発信力、論理的思考力、幅広い知識・考え方、プレゼンテーション力、コミュニケーション力などの複数の力を効果的に訓練可能な即興

型英語ディベートを推進しています。本大会では、即興型英語ディベートの普段の練習の成果を試し、全国の高校生と議論を交わすことで、さらなる成長・学習意欲を促すことを目的とします。授業での取り組み 成果を発揮できるよう、形式は授業導入可能なフォーマットです。

## 2 内容

以下の論題で議論した。

論題 (論題は、毎回ディベート開始15分前にはじめて発表されます)：

予選1：Plastic products should be taxed. (プラスチック製品に課税をすべきである。)

予選2：Parents of children who bully other children should face criminal charges. (いじめをした子の親は、刑事罰に課されるべきである。)

予選3：Japan should impose a diplomatic boycott of the Beijing Olympics. (日本は、北京五輪の外交ボイコットをすべきである。)

予選4：COVID-19 vaccination should be mandatory.

(新型コロナウイルス感染症に対するワクチン接種は義務化されるべきである。)

準々決勝：Wild fish catch should be prohibited and fish should be farmed.

(天然魚の漁獲は禁止し、魚は養殖すべきである。)

準決勝：Debate competitions should be held online rather than face-to-face regardless of the COVID-19 situation. (ディベート大会は、コロナ禍に関わらず、対面よりもオンライン開催の方がよい。)

決勝：The U.S. military should not have withdrawn from Afghanistan. (米軍はアフガニスタンから撤退すべきでなかった。)

キーノートレクチャー講師：

●東京大学生産技術研究所 特任教授 米田 美佐子 氏

●リージョナルフィッシュ株式会社 COO 石本 俊輔 氏

●立命館大学情報理工学部 教授・一般社団法人 ビブリオバトル協会 代表谷口 忠大 氏

## 3 成果と課題

全国84校が参加した大会でしたが、総合64位でした。この順位はディベートの試合の勝敗とディベーター個人のコミュニケーション能力の得点とを合算した結果です。コミュニケーションポイントは他校と比べると高



得点を取ることができました。あとはディベートの試合の勝率が上がると順位も上がると思われます。論題に関する知識を増やすことや立論の立て方などに課題があります。練習会では準備型のディベートで背景知識を増やすことや立論の立て方を練習し、即興型ディベートで英語運用能を身につけさせたいと思います。英語ディベートを部活動としておこなっている他校に比べると圧倒的に練習量が足りません。今後は練習量を増やすことができるような仕組みを構築することが重要だと思われます。

# 日本語ディベート大会

教諭 井上 博人（外国語科）

## 2021 年度関東甲信越地区中学・高校ディベート選手権 (第 26 回全国中学・高校ディベート選手権関東甲信越地区予選)

日 時 2021 年 7 月 17 日（土）、18 日（日）

場 所 本校（オンライン）

参加者 高校生 5 名 中学生 5 名

引率者 井上博人

### 目的

- ・ディベートという手法を通して知識、スキルの向上を図り、国際社会でリーダーシップを発揮できる人材を育成する。
- ・本校上位層の生徒たちの総合的な学力の向上を図る。
- ・ディベートを通じて他校との交流を推進する。

### 内容

2021 年関東甲信越地区中学・高校ディベート選手権がオンラインで行われ、高校生 5 名が参加しました。今回の大会は、コロナ感染症対策としてオンラインで行われました。今年度の論題は、以下の通りです。

< 高校の部 > 「日本は積極的安楽死を法的に認めるべきである。是か非か」 \* 積極的安楽死とは、延命治療の中止以外の手段により、意図的に死期を早める行為とする。

< 中学の部 > 「日本は中学校高等学校の部活動制度を廃止すべきである。是か非か」 \* 学校教育外の活動はこれを妨げない。\* 中学校とは、学校教育法に定める中学校、義務教育学校の後期課程、中等教育学校の前期課程、特別支援学校の中学部とする。高等学校とは、学校教育法に定める高等学校中等教育学校の後期課程、特別支援学校の高等部、及び高等専門学校の 3 年次までの課程とする。

高校の部では、女子聖学院と対戦し 3 体 0 で勝利しました。次の試合では三田国際高校と対戦し 1 - 2 で敗退しました。この 2 試合の結果から予選第 6 位で決勝トーナメントに進むことはできませんでした。3 年生 2 名、2 年生 2 名、1 年生 1 名でチームを構成し、3 年生がリーダーシップを発揮し、戦うことができました。また、この大会を通じて、ディベートを後輩へ引き継ぐこともできました。中学の部では、中学 3 年生でチームを形成し、3 試合を戦いました。明星学園とは 1 - 2 で惜敗し、西武台新座中には 0-3 で敗れ、予選第 9 位という結果で決勝トーナメントへ駒を進めることはできませんでした。コロナ禍の状況でなかなかまとまって練習する機会がありませんでしたが、中高両チームは大健闘しました。

### 成果

この大会は昨年から、中学、高校の両部門に参加することができるようになりました。中学高校共に大会参加常連校と対戦し、引けを取らない闘いぶりになってきました。この大会に出場した中高一貫コースの生徒たちの中から京都大学、北海道大学、千葉大学などの難関国立大学や早稲田大学、立教大学、青山学院大学などの難関私立大学に合格しています。特に国立大学の合格者は総合型選抜での合格です。このディベート大会の出場が多く影響しているものと考えられます。

# 第23回関東甲信越地区中学・高校春季ディベート大会

教諭 井上 博人（外国語科）

期 日：2022年3月26日（土）、27日（日）

場 所：本校（オンライン）

参加者：高校1年生5名 中学2年生11名

引率者：井上博人 加藤正行

## 目的

- ・ディベートという手法を通して知識、スキルの向上を図り、国際社会でリーダーシップを発揮できる人材を育成する。
- ・本校上位層の生徒たちの総合的な学力の向上を図る。
- ・ディベートを通じて他校との交流を推進する。

## 内容

この春季関東甲信越地区大会というのは夏に開催予定の「全国中学・高校ディベート選手権（ディベート甲子園）」の地区予選・全国大会と同一の論題で行われています。春季大会からいち早く取り組むことで、夏季大会へ向けての準備大会というような位置づけです。大会参加校数は高校の部・23校25チーム、中学の部・22校28チームです。論題は以下の通りです。

<高校の部>「日本はすべての石炭火力発電を代替発電に切り替えるべきである。是か非か」

<中学の部>「日本は中学生以下のスマートフォンなどの使用を禁止すべきである。是か非か」\* ここでいうスマートフォンなどとは、テザリング機能を使用せず携帯電話回線を直接使用し、インターネットのサイト閲覧や SNS 使用ができる情報端末とする。\* スマートフォンなどを所有することと、継続的に借用することを禁止する。\* 心身の障害など、やむを得ない事情の場合には使用を認める。

高校生の部では、第1試合：佐野日大中等、第2試合：都立西高校と対戦し、共に勝利しました。午後に行われました第3試合：広尾学園、第4試合：東海高校には惜敗し、2勝2敗という結果でした。中学生の部では、2チームが参加しました。東洋牛久中 A チームは、第1試合佐野日大中等と対戦し勝利することができましたが、第2試合の西武台新座中、第3試合の草加中との対戦は惜しくも敗れました。東洋牛久中 B チームは、第1試合：開成中 A、第2試合：東海中 A と対戦し、ともに惜敗しました。第3試合は明法中と対戦し勝利しました。東洋牛久中 A、B 両チームともに1勝2敗でした。

## 成果と課題

高校生の部に出場した生徒は昨年の夏大会を3年生と一緒に参加した生徒や英語ディベート大会に参加した生徒でした。ディベートに関しての知識やスキルが向上してきているので、2勝することができました。中学生2年生は今回が初めて出場する大会でした。中学2年のグローバル探究科目である哲学で日本語ディベートを扱ったため、参加生徒も多く、取り組みやすかったものと考えられます。今後の課題としては、ディベートを通じて、論理的思考力、表現力、情報収集能力を養うことができます。このような活動を各教科で取り入れ、誰もがディベートを通じて学力を向上させることができるようにするために授業シラバスの改善が必要です。また、中高一貫校の利点を生かして、縦割り（学年を超えて）での学び合いや、自校のみならず、他校と交流しながら進めていく教育活動を構築させる事が大切です。今大会を主催した教室ディベート関東甲信越地区の支部長は東洋大学国際学部グローバルイノベーション学科の今村肇教授です。今後は中高大や附属校の連携を深め、生徒たちの知的生産活動の機会をさらに増やしていくこと今後の課題であると言えます。



# 2021年度 英語スピーチコンテスト参加報告（中学校）

教諭 張貝 紀子・麻生 裕二（外国語科）

期 日 : 2021年7月9日（金）  
場 所 : 県南生涯学習センター 土浦市大和町9-1  
参加者 : 中学生5名（3年生2名・2年生2名・1年生1名）

## 1. 目的

本県の伝統と文化を尊重しつつ、時代の変化に対応するための豊かな語学力やコミュニケーション能力、主体性・積極性、異文化理解の精神等を身に付け様々な分野でグローバルに活躍する人財の育成を図るとともに、多様な他者と協働しながら、社会に新たな価値を創造し、将来のいばらきの発展に積極的に貢献しようとする生徒の育成を図る。

## 2. 実施概要

（1）2021年度の地区大会及び県大会テーマ

私たちがいばらき観光大使！「私たちが勧めるいばらきマイクロツーリズム」

（2）内容

1校3名から5名のグループで、4(3)で示されたテーマについて、5分以内で英語によるプレゼンテーションを行ったあと、やり取りのための準備の時間（1分間）をとる。

その後、3分間でその発表内容について、リスナー側のグループと英語でのやり取り（シェアリングタイム）を行う。

### ① 発表方法

- ・スクリーンに提示する資料（パワーポイントのスライド等）の使用枚数は、10枚を上限とする。
- ・自己紹介を含むすべてのパフォーマンスを5分以内で行い、5分経過の時点で進行係から終了の合図をする。
- ・スクリーンでのスライドに加え、リスナーに分かりやすく発表するため、手で持てる大きさまでの具体物の提示を認める。しかし、リスナーに資料等を配付することは認めない。
- ・発表後に他のチームと英語でやり取りをすることを踏まえ、発表内容や表現を工夫する。
- ・映像を用いる場合は、静止画のみとし、動画・音声データを使用しない。

### ② 事前学習

近隣のプレゼンテーションフォーラムに参加する公立中学校数校が本校に来校し、お互いに発表しあった。切磋琢磨する良い機会となった。



## (2) 日程

2021年7月9日(金)

【午前の部】 受付 9:00～9:20	【午後の部】 受付 12:30～12:50
会場 (A・B・C・D・E)	会場 (F・G・H・I)
土浦市立土浦第一中学校 土浦市立土浦第三中学校 土浦市立土浦第六中学校 土浦日本大学中等教育学校 石岡市立石岡中学校 石岡市立府中中学校 龍ヶ崎市立中根台中学校 龍ヶ崎市立長山中学校 取手市立永山中学校 取手市立取手第二中学校 江戸川学園取手中学校 牛久市立牛久第一中学校 牛久市立下根中学校	土浦市立土浦第二中学校 土浦市立土浦第四中学校 新治学園義務教育学校 石岡市立国府中学校 石岡市立八郷中学校 茨城県立竜ヶ崎第一高等学校附属中学校 龍ヶ崎市立城西中学校 龍ヶ崎市立城ノ内中学校 取手市立藤代中学校 取手市立藤代南中学校 牛久市立牛久第三中学校 牛久市立ひたち野うしく中学校 東洋大学附属牛久中学校

## 3. 成果

### ① 英語運用能力の向上

英語での発表を通して英語学習に対する興味・関心を深めることができた。流暢に話せるように粘り強く練習し、英語力の向上につながった。

### ② 自己表現力の向上

聞いている人にいかにわかりやすく伝えるか身振り手振りや表情なども含め練習し、自己表現力の向上につながった。

### ③ 情報収集力・自己発信力の育成

牛久周辺についてのプレゼンテーションに向け、生徒たちが主だった観光地に自ら足を運び、写真の撮影や情報収集に努めた。また、いかに効率的に伝えるかを工夫し、発表する力を養った。

## 4. 課題



昨年度までのインタラクティブフォーラム(討論形式)からプレゼンテーションフォーラムに内容が変わり、どのように準備をしたら結果が出せるかを模索しながらの指導になった。また、コロナウイルスの影響により、事前準備の時間があまりとれなかった。

# 第4回全国高校生 SR サミット “FOCUS” 参加報告

教諭 小岩 則子 (外国語科)

## 1. 概要

期 日：2021年7月10日(土)・11日(日) プロジェクトリーダー合宿  
7月12日(月)～30日(金) FOCUS WEEK (講演会5回)  
7月31日(土)・8月1日(日) FOCUS2021  
2022年1月21日(金)・22日(土) AFTER FOCUS

\*すべてオンラインで実施

使用言語：日本語または英語

オンライン媒体：Slack, Zoom, You Tube live stream

参加者：高校グローバルコース2年生2チーム(9名)

高校中高一貫コース2年生1チーム(3名) 1年生1チーム(2名)

主 催：立命館宇治中学校・高等学校

## 2. 内容

### (1) 実施の目的

- ①国内外の児童・生徒等及び日本に留学中の大学生とSDGsに関わる各校のプロジェクトの課題について協働で取り組み、その解決策を検討することを通して、互いに高め合う機会とする。
- ②生徒や児童等が社会の一員として理想とする社会について考え、どのような社会貢献ができるかを考える機会とする。

### (2) 実施の内容

【FOCUS2021】ワークショップ本番

参加企業等から、企業の視点でアドバイスを頂きながら、より実現可能性を高めていき、最終日にメンバーで考え抜いたプロジェクトを社会で活躍している方々に発表し、フィードバックを頂く。

- 1日目  
・実動しているプロジェクトからアイデア創出  
・課題解決方法のブラッシュアップ  
・各グループでプロジェクトを練り直す  
・最終発表の準備
- 2日目  
・各グループの最終発表と質疑応答  
・上位グループ最終発表  
・専門家によるフィードバック

## 3. 成果と課題

### 本校生徒の研究内容① 「医療保険でご長寿計画」

日本と世界の平均寿命を比べると男女ともに約10年日本のほうが長いですが、それは日本人の約9割が加入している医療保険がその要因であると考えた。アメリカには日本のように国民保険制度がないため医療費が高くて治療を受けられない人がいる。ベトナムは日本の制度と似ているが保険はあくまでも任意である。スウェーデンは全員が保険に入るユニバーサルヘルスケア制度があり財源は税金である。JRC活動の普及とSNSによる発信によって医療保険制度を世界に広め、世界の平均寿命が伸びることを願う。今回のFOCUS後、生徒会活動の中にJRC部を創設し活動することになった。



【感想】 私にとっての FOCUS は、高校に入ってから一番大きな取り組みでした。リーダーとして研修に参加し様々な学校の取り組みから刺激を受け、チームのためだけでなく、自分のためにも成長する事ができた夏休みになりました。発表が終わったあとも活動を継続するために先生方のご協力を頂いて青少年赤十字が行う JRC 活動に参加することになりました。今回の挑戦が私達にとって意味のあるものとなるように今後の取り組みにも力を入れていきたいです。



#### 本校生徒の研究内容②「先進国と発展途上国の違い」

食品ロス問題から見た「住み続けられるまちづくり」をテーマに考えてみた。食品廃棄を減らすためには①廃棄される野菜を安価で販売する②他店とともに商品開発をするという2つの方法が考えられる。このような方法で問題を解決することで次のような循環が創り出される。 <商品化⇒雇用⇒街の活性化⇒地域おこし⇒住み続けられるまちづくり>

【感想】 SDGs という1つの目的を持って全国という大きな規模で集まった高校生・中学生だったので、1つのゴールの中でも一人一人違うアプローチ方法があり、意見を交わす上でとてもためになった。FOCUSの活動内容は、リーダーを中心に他のグループのメンバーとネット上で協力しながら自分のプロジェクトをブラッシュアップするというものだった。知らない方との会話や自分とは違う性別や年齢の方と違う視点で意見を交わし、より考え方を深めることができた。その他にも社会人で海外の仕事に携わっている人のアドバイスも聞くことができて、この FOCUS だけでなくこれからの自主活動にも使えそうだったと思った。大変だったが、FOCUS に参加して良かった。



# 2021年度 全国高校生フォーラム参加報告

教諭 徳竹 圭太郎（地理歴史・公民科）

## 1. はじめに

全国高校生フォーラムは、文部科学省が実施している WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業及びスーパーグローバルハイスクール（SGH）ネットワークに加盟している学校の生徒が自身の研究活動の成果を報告するものであり、本校からは中高一貫コースの生徒が参加している。

中高一貫コースでは、中学校3年生次に卒業論文の執筆を通して研究手法を学び、高校に進学後にはより発展的な研究課題に取り組むカリキュラムが組まれている。

## 2. 授業の流れ

本年度の高校一年生はSDGsを中心テーマとして研究課題を設定しており、グループ研究に取り組んでいる。以下に授業の流れを示す。

表1 夏休みまでの研究活動の流れ

4月	テーマ：SDGsの考え方と社会全体でどのような取り組みが行われているのかを理解する ○SDGsの基本理念についての講義 ○各会社の取り組みについて調査
5月	テーマ：自身の探求課題を設定する ○興味があるSDGsテーマの設定 ○追求したい研究課題の設定 →生徒の興味関心に基づいて研究グループを設定
6-9月	研究活動 ○研究目的の設定、手法の検討、データ収集（アンケート、フィールドワーク、実験室実験）

## 3. 全国高校生フォーラムへの参加生徒の選出

夏休み終了後に実施した中間報告会において、9月段階での研究成果報告を行わせた。評価観点には「研究の新規性」、「研究目的の明確さ」、「調査方法の妥当性」、「研究結果の価値」の4点であり、課題研究担当の教員で評価・選出を行った。以下の表2に生徒の研究課題の一覧を示す。

表2 研究課題一覧

The abundance of the sea	Hold hands
Bullying response plan	REDUCED INEQUALITIES
Eliminate the gap in employment opportunities and wages for women	Bioethanol production using mushrooms
Sustainable Cities and Communities	Zero hunger
Literacy rate improvement	Ozone Layer Depletion
The relationship between coronaviruses and poverty	What influences the gap in education?
Clean water and sanitation	Tell me ! Marine pollution !
Current status and countermeasures for deforestation	Starvation

上記の中から、中間報告として十分な成果を出したと判断したグループを全国高校生フォーラムの代表グループとして選出した。

## 5. 全国高校生フォーラムでの発表

代表グループは事前資料として、研究のプレゼンテーション動画（英語）、研究の概要（英文）を提出した。研究に対する評価は、生徒同士で事前に提出した動画を見て投票する生徒評価、事前資料に基づいて審査員が評価する審査員評価の2観点から評価された。

本校から参加した研究グループのテーマは「Bioethanol production using mushrooms」であり、数種類のキノコからバイオエタノールの生成実験を行い、結果としてシメジから十分な量のエタノールを生成することが出来た。質疑応答ではキノコのバイオエタノールを生成することの社会的な意義等について他校の生徒や研究者の方々から質問を頂き、今後の研究の方向性について固めることが出来た。表彰を受けることは出来なかったが、自分達の研究を外部の人間に評価してもらうという経験は、生徒の探究活動に対するモチベーションを向上させるために重要であると考えられる。

また、同グループは同様のプレゼンテーションを牛久市のエコフェスタにおいて、地域住民の方々の前で発表した。



図1 校内での研究発表



図2 エコフェスタでの研究発表

## 6. 今後の課題

中高一貫コースの課題研究は今年で4年目を迎えた。今後、継続的に生徒の研究活動を進めていく上で、以下の課題点の解消が必要であると考えられる。

### ① 外部発表の精査

今回出場した全国高校生フォーラムだけでなく、生徒の研究成果を報告する継続的なイベントの数はここ数年で増加傾向にある。上述したように、外部発表の場を設けることは生徒の学習意欲に大きく影響を与えるため、積極的に参加させることが望ましいと考える。しかしながら、そうしたイベントの多くは、普段行っている研究課題の成果を発表することを前提とした日程が組まれているため、毎年行われているコンテストを整理し、そこで発表させることを目指して研究活動を進めさせる必要がある。

### ② グローバル探求を推進する校務分掌の設定

中高一貫コース以外のコースでは、グローバル探求を担当する教員は年度によって異なり、どのように進めるかといった基本方針の共有、コンテスト情報の共有が出来ていない。生徒の探究活動をより円滑に行うためには、グローバル探究科などの校務分掌の設定が急務である。

# 東洋大学国際観光学部 附属牛久 京北 高大連携企画

教諭 武藤眞樹 (外国語科)

期 間：2021年8月2日(月)

場 所：①東洋大学国際観光学部 ②東洋大学附属牛久高等学校 ③京北高等学校

参加者：東洋大牛久生徒 11名(1年生3名、2年生8名/女子11名) 教員3名、京北生徒 13名

## 1. 目的

- ①国際観光学部のプログラムに参加し、専門テーマに則った講義とワークを通じて積極性や自主性を養い、専門知識を吸収して考えることの楽しさを経験する。
- ②ツーリズムの基礎知識を学ぶ中で、コミュニケーション能力及びプレゼンテーション力の向上を図る。
- ③京北高校との合同参画によるワークを通して、双方向の親交を深め、学習や進路の情報交換を図る。

## 2. 日程

7月14日 課題配布及び課題学習

7月21日 第1回事前学習会

7月27日 第2回事前学習会

8月2日 時間	内 容
10:00～10:10	開会式 初等中等教育課 植木正文課長挨拶 中挾知延子学部長挨拶 佐々木一彰学科長挨拶
10:10～11:00	全体講義 佐々木一彰学科長講義
11:05～12:00	3チームに分かれて各講師による講義及びワークショップ①受講 チーム(1)「ツアープランナーになって旅行を企画してみよう」野村尚司教授 チーム(2)「古代ギリシャについて考える：神話と観光を通じて」泰田伊知朗教授 チーム(3)「観光地の魅力を読み解こう」内田彩准教授
12:00～13:00	昼食 休憩
13:00～14:30	3チームに分かれて各講師による講義及びワークショップ②受講
14:40～15:30	3チームに分かれて各講師による講義及びワークショップ③受講 京北・牛久合同研究総括及びプレゼンテーション
15:40～16:00	佐々木一彰学科長による講評 中挾知延子学部長講評 挨拶

8月2日 高大連携企画当日





### 3. 成果と課題

#### ①ルーブリックによる自己評価

プレゼンテーション力 (抜粋) 国際観光学部高大連携プログラム 参加者回答数 11 名			自己評価平均値	
項目	レベル	評価基準	研修前	研修後
資料活用	4 十分	内容を理解する上で十分な量の資料を、有効に活用することができている。	1.72	3.00
	3 概ね十分	一定の資料は用意されているが、内容の理解には一部足りない面もある。		
	2 やや不十分	不必要な資料があり、内容の理解につながらない。		
	1 不十分	資料が内容の理解につながらず、全く意味がない。		
総合判定	4 十分	事前に準備していた内容を元に、新たな課題などを見出すことができる。	2.00	3.69
	3 概ね十分	内容を理解した上で、相手に伝わるプレゼンテーションができる。		
	2 やや不十分	内容は理解できているが、十分に伝えることができない。		
	1 不十分	内容を十分理解できない状況でプレゼンテーションに臨み、相手に全く伝えることができない。		

#### ②生徒感想

- \*大学の先生からお話を聞くという機会はなかなかないので、とても面白い時間を過ごすことができました。大学の先生方の専門的なお話は私自身の知識を深める一助となりました。様々な人々の意見を聞いて自らの成長に繋がったと思います。今回、このようなプログラムに参加することができてよかったです。【チーム(1): 2年女子】
- \*私は英語が好きで、国際関係の仕事に興味があってこの企画に参加しました。そのためツアーコンダクターなどの仕事はよくわからなかったけど、この企画を通して協力しながら旅行の計画をたてるのがすごく楽しかったので、これからの進路に活かしたいと思いました。【チーム(1): 2年女子】
- \*以前からギリシャ神話にはとても興味があり、面白いなあと思っていたので、今回、ギリシャ神話の神々やトロイア戦争について詳しく知ることができ、今まで以上に面白いと感じました。私が知らなかった神様や彼らの話を泰田先生から伺い、色々な人と意見交換をすることができてとても良かったです。神話の話はやはりとても面白いものでした。【チーム(2): 1年女子】
- \*本日の活動を通して、国際観光学部にもっと興味を持つことができました。短い時間でしたが京北の学生ともたくさんコミュニケーションをとることもできました！航空や観光についても詳しく学ぶことができてとても楽しかったです。とても貴重な経験ができました。今日学んだことを活かして、今後も頑張っていきたいです。【チーム(3): 2年女子】
- \*今日、京北高校と東洋大学国際観光学部との連携の講座を受けて楽しかったし、観光についての興味・関心だけでなく、グループワークをして他の人の意見を聞いて、その意見はどういうところに着目してできたのかなど客観的に考えることができました。観光地の魅力を引き出そうという名目で先生が「たとえ実現が難しそうなことでも、意外と実現できることもあるから、意見を出してください。」とおっしゃったので、私自身も自分の意見を持って発言できたとし、最終的に私の意見が他の先輩方の意見と一緒に採用されたので、意見を出すことは自分と周りの成長につながるということを学びました。【チーム(3): 1年女子】

#### ③成果

- \*かつてシュリーマンの伝記「古代への情熱」がこじ開けた考古学やギリシャ神話への扉であったが、今その魅力は如何程かと懐疑的になっていた。コロナ禍によりデルタやオミクロン等ギリシャ言語が世界中に溢れている。更にアニメーションやゲームの世界でギリシャ神話の神々はその麗しき体と力で若者を虜にしている。泰田先生のギリシア・ローマ神話の講義を受ける生徒達はトロイの木馬も神話の神々をも周知しているどころかファンであった。国際観光学部の学びには、外向きな観光の魅力だけではなく土地の歴史や地理を掘り下げる学術的側面があることを認識させて頂いたことは大きな成果と考える。

#### ④課題

- \*校内外に於ける新型コロナウイルス感染拡大に伴い、例年の人気企画も参加定員を満たすことができなかつた。また、ルーブリック評価にも見られるように、十分な資料の読み込みと課題に当てる時間が不足していた。次年度に向けては、教務・進路指導等の部所や各コースと連携を取り、早い時期にアナウンスをする機会を探りたい。

# 「ワールドキャラバン」国際理解教育講師等派遣事業

専任講師 Glenn Serviss (外国語科)・教諭 小岩 則子 (外国語科)  
特任教諭 原田 健太郎 (理科)・教諭 佐久間 大 (地理歴史・公民科)

期 日：2021年12月10日(金)

場 所：本校・教室

参加者：高校グローバルコース1年生43名、2年生79名、3年生40名

主 催：茨城県国際理解教育推進協議会／公益財団法人茨城県国際交流協会

## 1. 目的

国際交流や国際理解の促進を目的とした事業を行う際に、必要となる外国人等講師や国際理解教育を企画するコーディネーターを派遣することにより、児童・生徒が外国人と直接対話する機会を積極的に設定し、開発教育のワークショップ等を通じて、将来、国際社会で活躍することのできる人材の育成を図る。

## 2. 内容と評価

(1) 講師：ジャヤンパット・チャーミンダ・ラジャパクシャさん(スリランカ)

①対象クラス【5限】13:20～14:05 3年K組40名 【6限】14:15～15:00 2年J組39名

②活動の内容 スリランカの紹介・講師の来日後の活躍の話等

③担当教員評価(5段階評価)

【生徒と講師の交流】評価4 (5.大変よくできた 4.できた 3.普通 2.あまりできなかった 1.全くできなかった)

理由：生徒が考えて用意したプレゼンテーションを発表することができず、少しがっかりした生徒がいた。

【事業の満足度】評価4 (5.大変満足した 4.満足した 3.普通 2.やや不満だ 1.不満だ)

理由：本校の一つの授業の時間帯が短いので交流する時間は少ない印象だった。また、英語が使えることを期待した生徒がいましたが今回の授業は日本語で行われた。

④事業に参加しての生徒の感想

- ・海外に行くことが難しい状況下で直接外国の文化や生活様式を学べたことはとても貴重で印象深い経験になった。
- ・Thank you for having this opportunity to tell us about your wonderful country. (Glenn)



(2) 講師：霍 雨佳さん(中国)、筑波大学

①対象クラス【5限】13:20～14:05 2年K組40名 【6限】14:15～15:00 3年K組40名

②活動の内容 自己紹介、中国の基本情報、中国の高校生活、質疑応答、交流(生徒と一緒に簡単なダンス)

③担当教員評価(5段階評価)

【生徒と講師の交流】評価5 (5.大変よくできた 4.できた 3.普通 2.あまりできなかった 1.全くできなかった)

理由：グローバルコースの生徒はカリキュラムに中国語会話の授業が組み込まれており、生徒は皆中国語で基本的な会話ができる。質疑応答も中国語で行われ実践的な場で中国語を使うことができた。

【事業の満足度】評価5 (5.大変満足した 4.満足した 3.普通 2.やや不満だ 1.不満だ)

理由：本校勤務の外国人教員以外の外国人の方々と、対面で会話する機会がなかなか持てない現況において、このような企画は本当にありがたい。外国語でコミュニケーションをとれたことが、生徒の学習へのモチベーションへと繋がっていることが実感できた。異文化への興味関心がさらに増したようである。

④事業に参加しての生徒の感想

- ・中国の高校は1クラスが60名と規模が大きく、ほとんどが全寮制であること、そして恋愛禁止であると



知り、びっくりした。日本よりも規制が厳しいのだなあと思った。

・日本では「ラーメンと餃子」、「チャーハンと餃子」がセットになっているのは当たり前だが、中国ではそれは主食を2つ食べることになり、そのように食事を提供されることは中国人にとってはショックなことであると話してくれた。

(小岩)

(3) 講師：エンフトゥル・エンフツォルモン さん (モンゴル)

①対象クラス 【5限】 13:20～14:05 2年J組 39名 【6限】 14:15～15:00 1年K組 43名

②活動の内容 自国の文化や街並み・食・遊牧民などについての講演、遊牧民のゲルの模型の紹介や組み立て体験、講師と生徒同士の交流。

③担当教員評価 (5段階評価)

【生徒と講師の交流】 評価5 (5. 大変よくできた 4. できた 3. 普通 2. あまりできなかった 1. 全くできなかった)

理由：最初は緊張した面持ちでいたが、講師の人柄などに惹かれ生徒が自ら質問や会話を行っていたため。

【事業の満足度】 評価5 (5. 大変満足した 4. 満足した 3. 普通 2. やや不満だ 1. 不満だ)



理由：YouTubeなどの動画配信サービスで他国のことを知ることが容易になったが、生の声を聞くことは大変有意義に感じたから。

④事業に参加しての生徒の感想

・最後に羊のぬいぐるみもらったことがとても嬉しかった。

羊のぬいぐるみが可愛かった。

・ゲルの模型を組み立てることがとても楽しかった。

・モンゴルの雄大な自然がとても美しかった。(原田)

(4) 講師：ガスパリヤン・ゲオルギ さん (ロシア)

①対象クラス 【5限】 13:20～14:05 1年K組 43名 【6限】 14:15～15:00 2年K組 40名

②活動の内容 経歴紹介、ロシアの文化紹介(食事、スポーツ、国民性)、ロシア語の発音練習(「こんにちは」「ありがとう」など)

③担当教員評価 (5段階評価)

【生徒と講師の交流】 評価5 (5. 大変よくできた 4. できた 3. 普通 2. あまりできなかった 1. 全くできなかった)

理由：講師の方の英語は、非常に聞き取りやすく、質疑応答も活発に行われた。生徒たちはお礼に英語の曲を歌った。ロシアに興味を持つ生徒が出てきた。

【事業の満足度】 評価5 (5. 大変満足した 4. 満足した 3. 普通 2. やや不満だ 1. 不満だ)

理由：グローバルコースで予定していた海外研修や留学生受け入れ事業等が全くできない状態の中で、貴重な体験ができたから。

④事業に参加しての生徒の感想

・「どのように英語の勉強をしたらよいか」、英語で質問した。通じてうれしかった。「とにかく積極的に英語で話すこと」とアドバイスを受けたので、ネイティブの先生にどんどん話しかけようと思った。

・写真撮影の後に、ゲオルギさんと腕相撲をした。まったく、敵わなかった。

・話がとても面白くて、とても盛り上がった。高校に入学してから一番楽しい日だった。また、やって欲しい。(佐久間)





# アメリカ・サンディエゴ研修(高校 2年グローバルコース)

主事 石塚 俊文 (地理歴史・公民科)

期 間：2022年3月5日(土)～3月14日(月)

場 所：アメリカ合衆国カリフォルニア州サンディエゴ郡レイクサイド

参 加 者：高校2年グローバルコース生徒8名

主 催：個人手配、取扱代理店はISS(株)国際交流センター

## 1. 目的

- 海外語学研修およびホームステイ体験を通じて国際理解を深める。
  - 【英語学習】英語だけの環境に飛び込み、英語をコミュニケーションの道具として学ぶ。
  - 【異文化理解・自己理解】外国での生活を体験することで、自分とは異なる立場、価値観の存在を理解する。また、日本の文化や生活の紹介を通して、自己を見つめる契機をつかむ。
  - 【コミュニケーション】1週間のホームステイ体験を通して、コミュニケーション力や社会性を磨く。
- 新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、今年度、本校で予定されていた海外研修がすべて中止になったため、コースの特性を鑑み、グローバルコースの生徒に限り、海外渡航を強く希望する生徒へ、海外研修の機会を提供する。

## 2. 内容

### (1) 日程

〔出発前〕出発前24時間以内にPCR検査を受け、陰性結果証明書を取得する。

	月日(曜)	場所	時刻	スケジュール	食事		
					朝	昼	夜
1	3月5日(土)	成田	14:00 17:05	成田空港集合 飛行機(航空JL066便)にてサンディエゴへ	-	-	機
		サンディエゴ	9:55	サンディエゴに到着、入国審査・手荷物受取 専用車にてホームステイへ移動 ※到着後3～5日以内にPCR検査 【ホームステイ泊】	機	機	○
2	3月6日(日)	サンディエゴ	午前 午後	ホストファミリーと過ごす 【ホームステイ泊】	○	○	○
3-7	3月7日(月) -11日(金)	サンディエゴ	午前 午後	現地高校にて体験授業 【ホームステイ泊】	○	○	○
8	3月12日(土)	サンディエゴ	10:00 13:15	ホストファミリーと過ごす オプションツアー(ディズニーランド、希望者) 【ホームステイ泊】	○	○	○
9	3月13日(日)	サンディエゴ	9:30 12:55	専用車にてサンディエゴ空港へ移動 飛行機(日本航空JL065便)にて成田空港へ 【機中泊】	○	-	機
10	3月14日(月)	成田	16:45	成田空港到着後、解散	機	-	-

〔アメリカ出国前〕出国前72時間以内にPCR検査を受け、陰性結果証明書を取得する。

〔帰国後〕到着日の翌日から3日間、自宅での自主隔離となり、指定されている検査機関での受診で陰性が証明できれば、4日目から外出が可能となる。

### (2) 実施までの経緯

2021年7月 高校2年グローバルコースのオーストラリア研修の実施時期を11月から3月へ変更。

オーストラリアの入国制限が厳しいため、代替案としてサンディエゴ研修を3月に準備。

11月 オーストラリア研修を中止し、代替案として3月に長崎研修を実施することを決定。



海外渡航を強く希望する生徒については、長崎研修に代わり、個人参加によるサンディエゴ研修へ参加することを認める。

11月20日(土) 18:30～サンディエゴ研修募集オンライン説明会(高2グローバルコース生徒び保護者対象)

12月2日(木) サンディエゴ研修申し込み締め切り。申し込み者40名。

12月24日(金) アメリカ合衆国は外務省感染症危険情報においてレベル3「渡航は止めてください(渡航中止勧告)」の対象地域であり、3月まで改善する見込みがないため、代理店の規定により、「受注型企画旅行」の実施ができず、サンディエゴ研修は個人手配型の旅行になる旨を申込者に連絡。

12月27日(月) 無料キャンセル期限。32名がキャンセル。サンディエゴ研修参加者8名で確定。

2月19日(土) 11:00～サンディエゴ研修参加者オンライン説明会



### (3) 現地の受け入れ態勢について

#### ①ホームステイ

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、ホームステイ先の受け入れ家庭が減少しているため、1人1家庭ではなく、1家庭につき2名のホームステイ手配となる。

ホストファミリーの選定にあたっては、厳しいスクリーニングを行い、バックグラウンドや犯罪歴がない事を確認済み。また、日本人スタッフが家庭を訪問し、住居の環境を確認している。

#### ②現地研修校 El Capitan High School (エルキャ

ピタン高校)

・公立高校、共学、生徒数1,675名、グローバルランゲージとリーダーシッププログラムを提供し、留学制の受け入れ等、国際文化交流を推奨している。

・学校では日本人生徒1名につき1名のアメリカ人バディがついて一緒に過ごす。

・所在地 カリフォルニア州レイクサイド

サンディエゴカウンティの東側に位置しカウボーイタウンとして有名な街で、大牧場が広がり、学校内にも農業や牧場などの施設がある。

## 3. 成果と課題



参加生徒8名は、PCR検査全員陰性で2022年3月13日(日)にアメリカを無事出国、14日(月)にみな元気に帰国することができた。本校では、2020年3月以降、年間10以上あった海外研修がすべて中止となっていた。結果として個人手配型の旅行となったものの、学校行事に順じた今回の企画が無事終了できたことには、今後、WITHコロナ時代の海外研修を企画していくうえで、大きな意義がある。

特にグローバルコースの生徒は、高校在学中の海外研修参加や留学を前提に入学してきているので、その期待に応えられるよう、次年度以降も工夫して1つでも多くの海外研修を実施していく必要がある。

# イングリッシュキャンプ in 河口湖 (高校1年グローバルコース)

教諭 佐久間 大 (地理歴史・公民科)

期 日：2021年4月11日(日)～17日(土)

場 所：東洋大学河口湖セミナーハウス

参加者：高校1学年グローバルコース44名

引率教員：2名

## 1. 目的

本稿は、東洋大学の管轄下にある河口湖セミナーハウスに入学後間もないグローバルコースの生徒が英語漬けの1週間を過ごすイングリッシュキャンプの実践報告である。

[教育目標] 英語スピーキングに取り組んで実感した壁(言いたいけど言えないという悔しさ)を感じさせ、友達と共有し、互いの頑張りを共有させ、語学や文化に対して学び合う風土を形成する。

## 2. 内容

1日目は、英語のみでのオリエンテーションを実施し、生徒に学ぶ心構えを創り上げるよう促した。また、事前テスト(TOEIC)を行うことで、各生徒の語学力を診断した。2日目・3日目については授業が開始され、語彙力を高めるためのトレーニングが始まった。主に、生徒に辞書を引かせ、日本語で概念の説明を書き記し、すぐに習った語彙を活用した英文を書かせる、といったシンプルな内容であった。また、この2日間の夜の空き時間を活用して、ホームルーム・ワークショップを独自に設計し、生徒らに対して「卒業時までに高校生活で叶えたい目標づくり」を実施した。具体的には、エンタくとマーカーを用いて、自身の現状(今)と目標(未来)について自由に書かせるものである。生徒に1人1冊ずつ手帳を付与し、それらを活用させて自身の生活や学習について英語で記すよう指導することと並行し、自己実現を促した。

4日目になると、生徒の緊張も解ける一方で疲れが見えてくる。そこで、事前に導入したレクリエーションを午後に挟み、生徒らの気持ちのリフレッシュを図った。具体的な内容としては、河口湖周辺の散策である。写真を撮ったり、カフェに入るなど、楽しげな様子が確認できた。5日目になってから、授業への取り組みがより充実してきた印象が見られた。これに合わせて、夜のホームルーム・ワークショップでは、2つのチームに分けて、英語の歌を練習し、翌日の夜に発表しあうという機会を提供した。生徒らは一人残らず積極的に参加している様子が確認できた。6日目になると、休み時間での生徒間での会話を観察しても、英語で答えようと語彙が3～5語ほど出てくるようになった。この段階でようやく効果が見え始めた様子であった。最終日は、閉会式を実施し、全生徒が賞状をもらい、グループレッスンの選抜者がサンキュースピーチを行った。また、閉会式後に、マネージャーの方に目標地点(海外大学進学者の到達度水準)を話してもらうように打ち合わせをし、高校2年生の秋には準一級取得以上が最低でも必要であることや、到達するための具体的な条件(1日の勉強時間や態度)について話を頂いた。そして、夜のホームルームでの英語の歌を披露しあう時間では、互いに優しい声かけや、充実感に浸った雰囲気を感じ、最後を締めくくることが出来た。これらの様子については、写真1～4に示す。

## 3. 課題

本キャンプの課題として、①女性スタッフがないこと、②研修中の様子を、保護者へ伝えるシステムがないこと、③入学後から1週間ずらし、生徒の心理的安定を図ること、④携帯電話の管理をより徹底し、辞書との使い分けを図ること、⑤キャンプ後の授業実践と連動性をより高め、英語の活用率が高い授業を提供することなどがある。

表1 イングリッシュキャンプのスケジュール

日付	4月11日	4月12日	4月13日	4月14日	4月15日	4月16日	4月17日	
曜日	日曜	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜	
7:00	7:55		朝食 (Aグループ/Bグループ交代制)					
8:00	8:45		授業				掃除	
8:50	9:35		授業				河口湖出発	
9:35	10:20		見直し・復習				移動	
10:25	11:10		授業					
11:15	12:00	学校集合	授業					
12:05	12:55	学校出発	昼食 (Aグループ/Bグループ交代制)				学校到着	
12:55	13:10	移動	休憩				解散	
13:15	14:00		授業	レク (A)	授業	総括テスト		
14:05	14:50		授業		授業	スピーチ		
14:50	15:35	河口湖到着	見直し・復習			休憩		
15:40	16:25	開始式	授業	レク (B)	授業	修了式		
16:30	17:15	診断テスト	授業		授業			
17:20	17:40		日記・語彙学習					
17:45	18:30	部屋移動	見直し・復習					
18:30	19:15	夕食・入浴 (Aグループ/Bグループ交代制)						
19:15	20:00							
20:00	20:30	ホームルーム・自己実現ワークショップ						
20:30	22:00	点呼						
22:00		就寝						



写真1



写真2



写真3



写真4



# イングリッシュキャンプ in 河口湖 (中学校2年)

教諭 麻生 裕二 (外国語科)

期 日：第1団 (B組) 2021年11月1日 (月) ~ 4日 (木)

第2団 (A組) 2021年11月4日 (木) ~ 7日 (日)

場 所：東洋大学河口湖セミナーハウス

参 加 者：中学校2学年81名

引 率 教 員：5名

外国人講師：生徒8~10名につき1名



## 1. 目的

- ① 英語学習：日頃の学習成果を試し、特に英語を活用する場面を自ら楽しむ姿勢を養う。
- ② 集団行動の実践：集団生活を通して、規律や約束を守りながら、協力すること・自主的に動く態度を育てる。
- ③ 公德心の育成：校外での活動を通して、公共のマナーをわきまえた社会性を育成する。

## 2. 内容

### (1) 事前学習

英語の授業の他に、グローバル探究科目である「国際理解」を活用し、英語落語の準備時間をとった。今回は、コロナ禍で創造祭での生徒発表ができなかったため、11月に保護者対象の発表会を開催した。

### (2) 日程

初日	出発	二日目	起床
8:50	車内ホームルーム	6:20	
12:00 12:50	昼食	7:00	朝食
13:25	セミナーハウス到着	8:00	8:00-09:35 レッスン② 9:35-10:20 問題演習・休み時間 10:25-12:00 レッスン③
15:30	オリエンテーション	12:00	昼食
15:40 18:30	レッスン 15:40-17:15 レッスン① 17:20-18:30 宿題	13:15 18:30	13:15-14:50 レッスン④ 14:50-15:35 英単語練習 / 休み時間 15:40-17:15 レッスン⑤ 17:20-18:30 日記 / ストーリー / 1日の復習
18:30 19:15	夕食・入浴	18:30 19:15	夕食・入浴 消灯・就寝
22:20	消灯・就寝	22:20	消灯・就寝



三日目 6:20	起床	四日目 6:20	起床
7:00	朝食	7:00	朝食
8:00	08:00-09:35 レッスン⑥ 09:35-10:20 問題演習・休み時間 10:25-12:00 レッスン⑦	8:00	英語落語準備
		9:00 11:40	英語落語発表
12:00	昼食	12:00	昼食
13:15 18:30	13:15-14:50 レッスン⑧ 14:50-15:35 英単語練習 / 休み時間 15:40-17:15 レッスン⑨ 17:20-18:30 1日の復習	12:45	出発
18:30 19:15	夕食・入浴 消灯・就寝	15:50	学校着 解散
22:20	消灯・就寝		

### (3) 事後学習

①英語落語の発表

本校内の講堂で保護者に向け英語落語の発表を行った。

②振り返り作文・掲示

4日間の研修を振り返り、各自の感想・反省を教室内に掲示した。



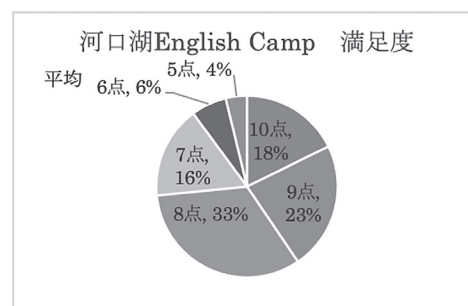
## 3. 成果

① 英語運用能力の向上

様々な場面における英会話を All English で学び、自信を深めた。また、英語落語を保護者にむけて発表した。

② 生徒事後アンケート

研修終了後の生徒アンケートの結果（10点満点）を円グラフにしたもの。



## 4. 課題

今回はコロナ禍により急遽国内語学研修を実施することになった。入学後初めての宿泊研修となり、得るものが多くあったように思われるが、メインの英語の学習に関してはもう少し難易度が高いものが良かった、といった意見も成績上位者からは聞かれた。

# 京都語学研修（中学校3年）

教諭 張貝 紀子（外国語科）

期 日：2021年11月4日（木）～7日（日）  
 場 所：京都府 京都市  
 参 加 者：中学校3学年43名  
 引 率 教 員：学年団4名（張貝・若林・高橋・大西）  
 外国人講師：生徒11名につき1名



## 1. 目的

- ①交友関係：寝食を共にすることにより、互いの理解を深め、友人関係の輪を広げる。
- ②自主自律：体験的な活動を通して、公共の精神を養い、社会性の育成を図る。集団の中での自分の役割を意識し規律や秩序を守り、自主的に活動する態度を育てる。
- ③国際理解・自国文化理解：平素とは異なった環境で語学力を高め、国際人としての感覚を育成する。自国文化への知識理解を深め、日本の伝統・文化のよさや豊かさに気づき、その価値や意義を理解する。

## 2. 内容

コロナ禍が続いているので、アデレード語学研修の代替として、高校1年生で行うべき日本伝統文化についての研修を京都にて行った。

### （1）事前学習

- ・班別による京都観光について、友人の意見を尊重しながら念入りに計画を立てた。
- ・英語の授業の他、グローバル探究科目「国際理解」を活用し、英語スピーチの原稿作成をした。

### （2）日程

Thursday, 4 November	Friday, 5 November	Saturday, 6 November	Sunday, 7 November
8:40 Leave School	7:00 breakfast	7:00 breakfast	7:00 breakfast
11:00 Tokyo Station ◇新幹線車内で昼食	8:30 Leave Hotel 9:00-10:30 京都文化体験	① 9:00-9:30 Icebreak ② 9:40-10:30 Culture Studies	⑧ 8:00-8:30 Review ⑨ 8:40-9:30 Presentation Practice
13:15 Kyoto Station	◇京友禅染体験 10:40 二条城◇観光	③ 10:40-11:30 Kyoto Review	⑩ 9:40-10:10 Word Games
13:30 三十三間堂 ◇観光	班別で終日京都観光 ◇自由昼食	④ 11:40-12:30 Presentation Practice	⑪ 10:20-12:00 Presentations Certificates
15:00 清水寺◇観光	◆4班に分かれ、引率教員と共に行動	12:30 lunch	12:00 lunch
17:30 Check-in, Orientation Transfer to rooms	17:30 Arrive at the Hotel	⑤ 13:20-14:10 SDGs Discussion	12:30 Leave the Hotel
18:30 dinner	18:00 dinner	⑥ 14:20-15:10 Explaining Japan	14:01 Kyoto Station
19:30-20:00 卒業生のお話	19:30-21:00 本日のまとめ・自習時間	⑦ 15:20-16:10 Eiken Practice	16:15 Tokyo Station
20:00-21:00 本日のまとめ・自習時間		18:00 dinner	18:00 Arrive at School
		19:30-21:00 Presentation Prep Evening Activities	

### (3) 事後学習

- ①スピーチ原稿の作成成果物として、最終日の英語スピーチ原稿をページズで活字に起こした。  
イラストや写真を入れ、より良いものを作成した。
- ②振り返り作文4日間の研修を振り返り、ページズで感想文を書いた。

### (4) 2日目 班別による京都観光

【Team Red】 まずは、メンバーの一人が行きたがった岡崎神社を目指して出発。交通手段などは事前に考えていたものの、バス停がどこにあるかわからず。教員に頼ることなく、自主的に二条城のスタッフの方に質問していました。その後も、困ったときは地元の人に尋ねていました。岡崎神社はうさぎ神社として有名。その後、再びバスに乗って祇園へ。◆昼食は祇園にて小グループに分かれて。男子グループは「いかにも京都」という風景の花見小路を見学しながら、どこで食べるか相談。祇園は高級店が多いため、お財布との折り合いが難しかった様子。最終的には中華を選択しました。女子グループは牛かつやそばを食べたとのこと（学校でも「また牛かつ食べたい」というほど満足した模様）。◆午後は、見学予定であった建仁寺をパスし、メインである伏見稲荷まで電車で移動。電車に乗り慣れているメンバーが切符の買い方、改札の通り方などをレクチャーしていました。伏見稲荷の千本鳥居に皆感動。が、ここで体力の限界を迎え、下山。京都駅でお土産を買い足し、ホテルへと帰りました。（若林）

【Team Blue】 普段はスマートフォンで何でも検索して行動している生徒たちにとって、地図を片手に知らない街を散策するのは、初めての経験でした。地図の見方、方角は？どちらの方向に歩いていいのかわからない。集団で力を合わせながら、ひとつひとつミッションをクリアしていきました。修学旅行の街、京都の人たちは、本当に親切で、郵便配達の人、警備員の人、商店の老夫婦、みなさん本当によくしてくださいました。◆昼食後、世界遺産である東寺に向かいました。生徒の感想を紹介します。◆五重塔の中はとても煌びやかで1000年以上経っているとは思えないような見た目でした。中には像や歴史で習ったことのあるような壁画がありました。他にも近くにあった建物に入り、そこにはたくさんの像があり、それぞれ様々な表情をしていました。昔の人が細かい装飾を施した像を作ったことに驚きを隠せませんでした。（中3女子）◆日本一大きな五重塔、御影堂、金堂など密教文化を代表する建物を実際に自分の目で確かめることで生徒たちは歴史を肌で感じていました。ハブニングありの珍道中でしたが、土地の人と触れ合える楽しい時間でした。（張貝）

【Team Yellow】 解散後、二条城から北野天満宮に向かいます。綿密に下調べをした交通手段でしたが、なんと乗ろうとしていたバスが運休と、大波乱のスタートでした。生徒たちは焦りながらも臨機応変に対応し、別ルートで何とか到着することができました。臨機応変に対応をする大切さを学ぶことが出来たと思います。◆北野天満宮に到着し、学力向上を皆で祈願しました。多くの生徒が学力向上のお守りを買っていました。もちろん努力も怠らずに頑張りたいと思います。私も学級に一つお守りを購入しました。◆次に向かったのは、金閣寺です。北野天満宮から思っていたよりもバス停が遠く、午前中の時点で足の限界がきた生徒もいました。皆で支えあいながら何とか到着。天候にも恵まれた金閣寺は圧巻で、生徒たちも写真を撮る手が止まらないようでした。◆最後に向かったのは嵐山です。少し遅い昼食を各々とり、その後は嵐山を自由に散策しました。スイーツ巡りをした生徒や、天龍寺を散策した生徒など各々充実した過ごし方が出来たようです。帰りは嵐電に乗り、ホテルに時間通りに帰ることが出来ました。（高橋）

【Team Green】 嵐山グループは、二条城を出て通称『嵐電』と呼ばれる電車に乗り嵐山へ向かいました。嵐電は地下鉄・バス1日券の対象外だったようで、切符やICカードを使用して移動です。切符を購入することがない生徒もいて、良い社会勉強になったと思います。◆嵐山に到着後は、3つのグループに分かれ昼食を取りました。13時に再集合の予定でしたが、あるグループは料理がなかなか出でこず、注文から30分近く待ち食事にありつくことができました。観光地では、よくあることですね。◆昼食後は、嵐山観光です。野宮神社・竹林の道・天龍寺・渡月橋などの名所を散策し、空いた時間でお土産を購入したり、スイーツを食べたりして過ごしていました。長時間歩いたので、疲れたのか帰りの電車ではほとんどの生徒が寝ていました。◆嵐山散策の後は、阪急電鉄に乗り換え『錦市場』へ向かい、散策しました。錦市場は、400年を超える歴史ある商店街です。色んなお店を巡り、お土産などを購入していました。（大西）

### 3. 成果

#### (1) 生徒プレゼンテーション

最終日のスピーチでは、Japanese Culture, Social Issuesの中から好きなものを選び、スライドを用いてグループで発表した。説明しやすいように、iPadで写真やイラストを前もって用意して臨んだ。

#### (2) 生徒の感想

・今回の研修で、「もっと積極的に英語を話す」ことが今後の課題であると実感しました。ネイティブの先生に質問されると、何て言えば伝わるのか慌ててしまいまともに答えることができなかつたし、自分から先生に質問することが全然できませんでした。今思うと自分の英単語の知識の無さ、英語でのコミュニケーション力の無さにもっと勉強しておけば良かったと悔しさがあります。英語が上手い人は自分から積極的に話しかけたり説明したりしていました。この反省から、来年高校1年生の語学研修の時は今回よりも先生とまともに会話ができるように勉強に励みたいと思います。(中学3年・女子)

・卒業生のお話を聞いて、「限界を自分で決めるのはよくない」という言葉が私の心に響きました。これは私がいつも心の中で分かっているがらしてしまっていることです。本当は努力すれば出来るようなことでも、挑戦する前から自分で諦めてしまう。気持ちで負けてしまっていて実行することができない。今後は、自分で勝手に「このくらいでいい」と上限を決めずに、向上心を持ってやっていきたいと思いました。(中学3年・女子)

・全員の前のプレゼンテーションは、グループ内でのものとは雰囲気が異なり、より緊張し不安もありましたが、発表が進むと緊張や不安よりも食品ロスについて知ってほしいという感情の方が大きくなりました。また、レッスンを習ったスピーチをする上での大切なアイコンタクトや話すスピードなどを心掛けることができました。スピーチ練習の時にアドバイスをくれた先生からコメントをもらえた時は嬉しかったです。今度は、暗記をしてより食品ロスについて感情を込めて発表できるように努力したいです。(中学3年・女子)

・友禅染の文化体験はとても良い経験になりました。筆の様なもので掠れた絵の具を塗ると言うのは私の想像していた染め方とはかなり異なり、かなり印象的でした。京都の班別の散策のワクワク感がたまりませんでした。(中学3年・女子)

### 4. 課題

3泊4日の日程では、日本伝統文化と語学研修の両方は少し無理があったようだ。京都までの往復を考えると、どちらも1日半の時間しかとれず、少し物足りなさを感じた。中1のAll English Days(2日間)、中2のブリティッシュヒルズ研修(3泊4日)と比較すると、プレゼンテーションの内容はより良くなっているものの、語学研修の時間は十分に確保することができなかった。次年度への引継ぎとして、日本伝統文化と語学研修は切り離して検討したほうがよいと思われる。今回コロナ禍であるにもかかわらず、京都で研修を行えたことは、生徒たちにとって間違いなく貴重な経験となった。



# 冬休みイングリッシュキャンプ in 河口湖

主事 石塚 俊文（地理歴史・公民科）

期 間：2021年12月26日（日）～2022年1月1日（土）

場 所：東洋大学 河口湖セミナーハウス（山梨県南都留群河口湖町）

参 加 者：本校2年グローバルコース生徒1名、他校生6名



## 1. 目的

- ①英検対策を取り入れた英語4技能レッスンにより、英検2級、準1級合格のためのスキルを磨く。
- ②日本語禁止 (English Only Policy) の施設内で日常会話を英語で行うことにより、英語に触れる回数を増やし、英会話に対する苦手意識の払拭を図る。
- ③海外語学研修を控えた生徒に積極的参加を促し、英語コミュニケーション能力の向上を図る。

## 2. 内容

<日程>（一般英会話コース中級）

12月26日（日）		12月27日（月）～31日（金）	
13：00	学校出発（専用車）	07：00-08：00	朝食・朝の集会
16：00-17：00	入寮	08：00-08：45	レッスン① Pronunciation
17：45-18：30	オリエンテーション	08：50-09：35	レッスン② Vocabulary
18：30-19：15	夕食	09：35-10：20	問題演習
19：15-22：00	入浴・自習・自由時間	10：25-11：10	レッスン③ Build up
22：30	消灯	11：15-12：00	レッスン④ Communication
		12：05-13：10	昼食
		13：15-14：00	レッスン⑤ Role play
		14：05-14：50	レッスン⑥ Grammar
		14：50-15：35	英単語学習
		15：40-16：25	レッスン⑦ Discussion
		16：30-17：15	レッスン⑧ Review
		17：20-18：30	単語テスト予習
		18：30-19：15	夕食
		19：15-22：00	入浴・自習・自由時間
		22：30	消灯
12月31日（金）			
17：45-18：30	卒業式		
1月1日（土）			
07：00-07：45	朝食		
09：00	退寮		
12：00	学校到着（専用車）		

## 3. 成果と課題

参加生徒は1名のみで、事後アンケートではレッスン内容、担当講師については、いずれも満足したとの回答であった。しかし、自身の取り組みについては、滞在中は日本語を使わないという“English Only Policy”が順守できなかったと答えている。海外研修であっても同様の問題が生じるが、国内研修の場合は、特に参加者の意識の徹底が必要である。今後も新型コロナウイルス感染の影響が継続し、海外渡航には制限があると予想されるため、海外研修の代替企画として有効活用できるよう、参加者の事前指導にも力を入れていきたい。

# ブリティッシュヒルズ語学研修

教諭 田中 葉摘美 (外国語科)

期 日：2022年1月4日(火)～1月6日(木)  
 場 所：福島県 ブリティッシュヒルズ  
 参加者：高校生40名(高校1年生27名、高校2年生13名)  
 引率教員2名  
 外国人講師：11名



## 1. 目的

グローバル人材育成のため、語学学習及び国際理解を深める場を設定する。日常とは違った環境において、英会話レッスンと異文化体験、合宿生活を行うことにより、参加生徒の英語を話すことへの抵抗感をなくし、英語学習に対するモチベーションを高める。

## 2. 内容

### (1) 日程

Tuesday, 4 January	Wednesday, 5 January	Thursday, 6 January
9:30 出発 Have Lunch on the way 上河内 SA にて昼食	7:15 Buffet Breakfast (Refractory)	7:00 Buffet Breakfast (refectory)
	09.00-10.30 Lesson 2 Group 1: Fun with Directions Group 2: Fun with Directions	-Check Out Before 8.50- Store your Luggage 9.00-10.30 Group 1: Snooker Group 2: Describing Things
	11.00-12.30 Lesson 3 Group 1: Discussion Series: The SDGs Group 2: Discussion Series: The SDGs	-Free Time- Shopping / ENERGIZE ME! 【EXPLORE】 12.00- Depart by Own Bus
14.00 Arrive at British Hills by own transport Store Luggage Check in, Orientation & Guide to Dining (Br-Balaclava × 2)	12:50 Buffet Lunch (Refractory)	12.00 出発 Have Lunch on the way 13.00 那須高原にて昼食 16.30 学校到着
After 15.00 -Transfer to Rooms-	14.00-15.30 Lesson 4 Group 1: Describing Things Group 2: Snooker	
16.00-17.30 Lesson 1 Group 1: Survival English- Intermediate Group 2: Survival English- Intermediate	16.00-17.30 Lesson 5 Group 1: Introducing Japan : Intermediate Group 2: Introducing japan : Inter- mediate	
Change for Dinner	18:00 Buffet dinner (Dining Hall)	
18:15 Buffet dinner (refectory)	19.30-21.00 Lesson 6 Group 1: Travel in the UK Group 2 : Travel in the UK	
ENERGIZE ME! 【CHALLENGE】 ① 19.30- / ② 20.05- ( )	-Free Time Activities- Victoria Alley 8.00-19.00 Gym -22.00 / Pub - 22.00	



### 3. 成果（生徒の感想）

- ・ブリティッシュヒルズの英語研修を終えて一番印象に残ったことは、英語でコミュニケーションを取ることの難しさです。研修中はすべてのレッスンが英語で行われました。事前にわかっていたことではありましたが、改めて英語の説明を理解して話す難しさを感じました。レッスンに参加した際、最初は自分の言いたいことが英語で話せず、とても悔しい思いをしました。しかし、色々なレッスンを受けるうちにレッスンに参加できている実感を得て、レッスンがとても楽しく感じました。三日間で、語学力の向上だけでなく積極的にレッスンに参加する姿勢を身につけることができました。三日間の研修の成果をこれからの活かしたいと思います。（高校2年女子）
- ・ブリティッシュヒルズに行き、自分の英語でのコミュニケーション能力を高めることができましたと思います。英語での授業についていけるかの不安がありましたが、実際に受けてみると先生方がとても親切で楽しく分かりやすく教えて下さったので安心して英語力を身につけることができました。授業中には積極的に参加することの大切さも学びました。また、授業以外でも外国人スタッフの方たちが話しかけてくれて写真を一緒に撮ったりしました。英語での会話を楽しむ事ができ、改めて英語でのコミュニケーションの楽しさを実感しました。（高校2年生女子）

### 4. 課題

昨年度は新型コロナウイルス流行に伴い、実施ができなかった。今年度2年越しのブリティッシュヒルズ語学研修の実施となった。生徒たちも、英語研修の機会を待ちわびていたようで、積極的な行動が多く見られた。授業の中で、率先して発言したり、授業の外では、ネイティブ講師に話しかけていたりする姿があった。その活動を通じて、実践的な英語学習ができたのではないと思う。コロナ禍での研修ということもあり、授業中は随時フェイスガードを装着していた。そのおかげもあり、グループワークやディスカッションなどにも取り組めた。今後も感染対策を徹底させながら、このような語学研修を通じて生きた英語を使う楽しさを実感させるような体験を行わせていきたい。

# English Workshop in NAGASAKI

教諭 小岩 則子 (外国語科)

## 1. 概要

研修地：長崎市

実施日：2022年3月6日（日）～3月9日（水） 3泊4日

参加者：高校2年グローバルコース 70名

引率者 石塚俊文 小岩則子 原田健太郎 Glenn Serviss

代理店：ISS（株）国際交流センター

## 2. 内容

### (1) 目的

ネイティブ講師の指導の下、実践的な英語を学ぶ。様々なテーマに沿った研修を行い、英語でのプレゼンテーション能力を向上させる。また、ハウステンボスにおいてSDGs達成に向けた取り組みについて学ぶ。

### (2) 内容 アクティビティを中心に記載

月日	時刻	スケジュール
3月6日（日）	10：00 12：00 13：00-13：50 14：30-17：15 20：00-21：00	羽田空港出発 JAL607便 長崎空港到着 長崎市内で昼食 オリエンテーション 英語研修 Evening Activity 本日のまとめ・プレゼンテーション準備
3月7日（月）	9：00-12：30 13：30-17：00 19：30-20：00	英語レッスン 英語レッスン・プレゼンテーション準備 & 本番 閉会式 & 表彰
3月8日（火）	9：00-10：00 10：10-10：40 11：00-12：30 12：30-14：40 15：30-16：30 16：30-21：00	グラバー園・大浦天主堂 見学 出島 見学 平和公園・長崎原爆資料館 見学 昼食後、ハウステンボスへ移動 SDGs 講話 ハウステンボス 観光
3月9日（水）	9：00-14：00 14：00-15：30 17：30-17：00	ハウステンボス半日観光 佐世保市内車窓観光 長崎空港出発 JAL614便 - 羽田空港到着

## 3. 成果と生徒の感想

英語プレゼンテーションに向けてSDGs 12: Responsible consumption, production を共通のテーマに設定し、事前指導として英語の原稿を準備する機会を設けた。生徒たちはこのテーマを身近な問題として捉え、様々な視点で個性あふれる内容の原稿を書き、研修当日を迎えることができた。入念な準備をしたおかげで生徒一人一人が自信をもってプレゼンテーションに臨み、英語講師からのアドバイスを受けて全員がプレゼンテーションの基本的な技能を身に付けて発表することができた。ここに生徒2人の感想を紹介する。





Our global course went to language training in Nagasaki. In the training, we learned a lot of knowledge to make the presentation easier to convey. Above all, I learned about the importance of clearly communicating the conclusion and the main message first. While utilizing the knowledge, I learned this time for future presentations. I would like to continue self-study at school and on the Internet and aim to improve my skills.



Through this Nagasaki English program, I can see a lot of students look very vivid. This program's biggest objective is to make a presentation about SDGs Goal 12 and also we had enjoyable activities. The members of my group and the teacher were such fun people that I enjoyed every event. The most memorable event was the presentation. We had the same topic, but each person had their own opinion. Moreover some groups made presentations with music and actions. It was all a compelling and interesting presentation. All the events were fun and it was a very meaningful two days.

# 課題解決型・岩手修学旅行(高校2年進学・スポーツコース)

教諭 朝田 香世 (地理歴史・公民科)

期 間：A班 2022年3月9日(水)～12日(土) / B班 3月11日(金)～14日(月)

場 所：岩手県三陸・雫石方面

参 加 者：高校2年生進学・スポーツコース 生徒372名、引率教員21名

## 1. 目的

- ① 知見の拡充：物の本質に迫る
- ② 震災学習：防災意識を高め、復興について考える
- ③ SDGs 研究『グローバル教育』…日本人としてのアイデンティティを見いだす
- ④ 人とのふれあい：情操を豊かにする
- ⑤ 集団行動の実践：自ら考え、主体的に行動する

## 2. 内容

### (1) 事前学習

3月2日(水) 5-7限 修学旅行短歌集について、抗原検査キット配布、体験学習準備、千羽鶴準備、諸注意等。

3月3日(木) 1-4限 『中尊寺金色堂』『東日本大震災』について、5-7限 LHR：SDGs 探究

### (2) 修学旅行の行程

	月日	行程	宿泊地
1	A:3/9(水) B:3/11(金)	6:10 7:50 8:21 10:07 10:50 発地-(バス)-大宮駅-(はやぶさ103号)-一ノ関駅-(バス)-【世界遺産】 13:00 14:40 16:00頃 18:00頃 中尊寺-(バス)-【震災学習】陸前高田・大船渡-(バス)-ホテル	【三陸】 A:三陸花ホテル はまぎく B:休暇村陸中宮古
2	A:3/10(木) B:3/12(土)	8:15 11:00 10:50 13:305 ホテル-(バス)-雫石プリンスホテル-(ロープウェー)-雫石スキー場 15:45 スキーレッスン①-(ロープウェー)-ホテル	【雫石】 雫石プリンスホテル
3	A:3/11(金) B:3/13(日)	9:00 11:00 ホテル-(ロープウェー)-スキーレッスン①-(ロープウェー)-ホテル(休憩) 13:10 15:45 -(ロープウェー)-スキーレッスン②-(ロープウェー)-ホテル	【雫石】 雫石プリンスホテル
4	A:3/12(土) B:3/14(月)	8:30 盛岡手づくり村 ホテル-(バス)-小岩井農場-(バス)-盛岡市内・わんこそば A:盛岡駅14:50-(はやぶさ28号)-16:39大宮駅-(バス)-18:00学校他 B:盛岡駅14:08-(やまびこ64号)-16:34宇都宮駅-(バス)-18:30学校他	

## 3. 成果

### (1) 生徒の感想

スキー学習ではなかなかうまくいかずたくさん転びましたが、上手に滑る方法を友だちと教え合い助け合うことで絆を深め、難しいと思っても何事もチャレンジしてみることの楽しさを知りました。震災学習では、当時を思い出させる悲惨な状態の建物から地震の怖さと辛さを肌で感じ胸が痛くなることも多くありました。そして、私たちが学んだことを大地震について知らない世代にも伝えていくことが大切だと心から思いました。コロナ禍で色々な制限がありながらの修学旅行でしたが、充実した四日間を過ごせたことは私の中で一生忘れられない大切な思い出です。(A班B組 井上真咲生)







私たちは、今回の修学旅行で様々な貴重な体験をすることができました。まず1日目に、中尊寺金色堂の観光と震災学習を行いました。金色堂では、他では見られないとてもきれいな光景を見ることができました。震災学習では、被災地を実際に見ることで、今までより強く震災の恐ろしさを感じました。2・3日目のスキー教室では、実際にスキーを行うまでは1日で滑れるようになるか不安だったのですが、インストラクターの教え方がとても上手で、2日目には優雅に滑ることができました。4日目は、皆の感性を存分に発揮し、世界に一つだけのチャグチャグ馬コを造りました。また、皆それぞれの目標を持ち、わんこそばに向き合う姿はとてまかつこよかったです。今回このような修学旅行に参加できたことでクラスの仲も深まり、一生の思い出を作れたことに感謝しています。(B班E組 久木田勝馬)

#### 修学旅行事後アンケート

\*主な項目かつ最も高かった項目のみ掲載

①中尊寺金色堂を含む平泉見学で、印象的だったもの	中尊寺金色堂	85%
②震災学習で最も印象的だったもの	陸前高田市の高台から見た「奇跡の一本松」	55.20%
③スキーレッスンは上達したか?	上達できた・やや上達できた	93.90%
④盛岡手づくり村の手作りたいけんについて	作品のできあがりを楽しみだ	46.50%
⑤わんこそば体験について	楽しく食べることができた	62.70%
⑥感染症対策の取り組みについて	徹底できた・ほぼ徹底できた	96.30%
⑦修学旅行に参加してどうだったか?	とても良かった・良かった	97.90%

#### 4. 課題

コロナ禍のため11月から3月に日程変更したうえ、さらに、変異株急増により急きょ就学地を変更した経緯がある。よって、この修学旅行は今年度の実施形態であるとも考えられるが、徹底した感染症対策を実施したことは、次年度の健康管理対策に生かすことができると思われる。

徹底した不織布マスクの着用、こまめな手指消毒とうがい等の基本的な感染症対策を実施した。また、バスの乗降のたびに検温をおこなったことにより、早い段階での発熱者把握ができるので、このことは感染拡大を防止する最善策であるように思われる。

コロナ禍が終息しても、大勢の人数で動く修学旅行は「手指消毒やうがい」、「検温」等の感染症対策については引き続き継続するのも一案なのではないかと考えられる。



# 2021年度本校グローバル人材育成事業の成果と課題

主事 石塚 俊文 (SGH ネットワーク委員会、地理歴史・公民科)

## 1 学校設定教科「グローバル探究」

今年度、学校設定教科「グローバル探究」は、中学校、高校の特進・グローバル・中高一貫コースの計796名を対象に実施された。

表1 2021年度校外発表参加者数にしめる「グローバル探究」履修者の割合

校外発表項目	参加生徒数	うち「グローバル探究」履修者	
		人数	割合
外国語スピーチコンテスト	31人	31人	100.0%
ディベート大会(英語・日本語)	55人	55人	100.0%
課題研究の校外発表	34人	34人	100.0%
計	120人	120人	100.0%

英語・中国語・フランス語のスピーチコンテスト、ディベート大会、課題研究の校外発表に参加した生徒数は延べ120名で、全員が「グローバル探究」履修者であった。文部科学省WWLコンソーシアム構築支援事業である全国高校生SRサミット FOCUS (立命館大学) へも参加することができた。

トビタテ！留学 JAPAN は、最後となるはずだった2020年度募集が中止となったのを受けて、今年度新たに募集が行われ、本校から2名が採用された。これまでの採用者9名のうち7名は「グローバル探究」履修者である。同教科がプレゼンテーション能力の向上や主体性の育成に一定の効果を示した事を証明した事例であるといえる(表1・表2)。

表2 トビタテ！留学 JAPAN 派遣留学生採用者に占める「グローバル探究」履修者

年度	本校採用者	うち「グローバル探究」履修者
2016年度	1人	1人
2017年度	3人	2人
2018年度	2人	2人
2019年度	1人	0人
2021年度	2人	2人
計	9人	7人

(2020年度は新型コロナウイルス感染拡大のため募集中止)

## 2 海外研修

表3 海外研修および海外ホームステイ参加者数の年度別推移

項目	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
A 海外研修参加者・留学者数 (Bを含む)	164人	480人	492人	567人	-	12名
B 海外ホームステイ参加者数	151人	177人	249人	227人	-	12名
C 国内語学研修 *1	157人	126人	40人	61人	108人	279人
D 校内語学研修 *2	-	-	286人	342人	524人	632人

\*1 国内の宿泊施設で外国人講師による英語レッスンを受講する行事。イングリッシュキャンプ。(延べ人数)

\*2 外部の外国人講師が来校し、本校で行う英語レッスン。All English Days、高大連携アチーブイングリッシュなど。(延べ人数)

今年度は高校2年グローバルコースのアメリカ・サンディエゴ研修8名、トビタテ！留学 JAPAN (カナダ派遣) 1名、1年留学 (ベルギー) 1名、ターム留学 (カナダ) 2名、計12名が海外に渡航し、現地でホームステイを行った。新型コロナウイルス感染拡大の影響で昨年度はすべての海外研修が中止となったが、徐々に海外渡航の機会が増えつつある。そのための海外研修は国内語学研修または校内語学研修へと変更された(表3)。

## 3 訪日団・留学生受け入れ

表4 訪日団・留学生受け入れ数およびホームステイ受け入れ数の年度別推移

項目	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
E 訪日団・留学生受け入れ数 (Fを含む)	90人	84人	111人	108人	1人	0人
F ホームステイ受け入れ数	35人	77人	43人	79人	0人	0人

今年度は国の留学生受け入れ政策が厳しいこともあり、留学生等受け入れの機会は一度もなかった。(表4)。



## 4 英語検定

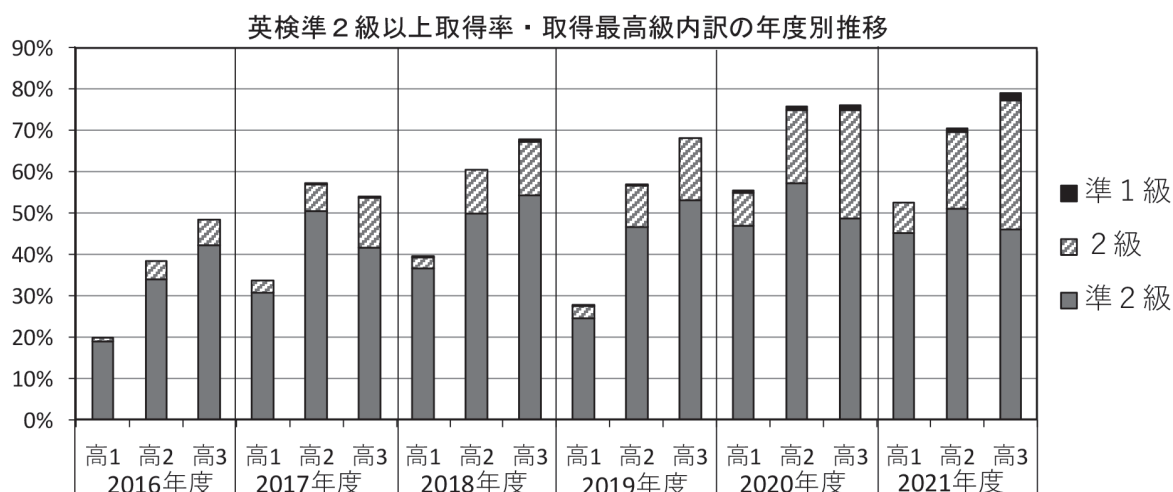


表5 2021年度 コース別英検取得状況 各自の取得最高級 (2022年3月14日現在)

学年	コース	在籍数	準2級		2級		準1級		計(準2級以上)	
			人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
中学1年	一貫	70	3	4.3%	2	2.9%	0	0.0%	5	7.1%
中学2年	一貫	82	15	18.3%	3	3.7%	0	0.0%	18	22.0%
中学3年	一貫	47	10	21.3%	1	2.1%	0	0.0%	11	23.4%
高校1年	進学	346	157	45.4%	11	3.2%	0	0.0%	168	48.6%
	Global	44	27	61.4%	12	27.3%	0	0.0%	39	88.6%
	特進	77	37	48.1%	7	9.1%	0	0.0%	44	57.1%
	スポーツ	27	1	3.7%	0	0.0%	0	0.0%	1	3.7%
	一貫	56	27	48.2%	10	17.9%	0	0.0%	37	66.1%
	計	550	249	45.3%	40	7.3%	0	0.0%	289	52.5%
高校2年	進学	359	203	56.5%	30	8.4%	1	0.3%	234	65.2%
	Global	79	40	50.6%	31	39.2%	1	1.3%	72	91.1%
	特進	129	70	54.3%	38	29.5%	1	0.8%	109	84.5%
	スポーツ	32	1	3.1%	0	0.0%	0	0.0%	1	3.1%
	一貫	53	18	34.0%	23	43.4%	2	3.8%	43	81.1%
	計	652	332	50.9%	122	18.7%	5	0.8%	459	70.4%
高校3年	進学	326	182	55.8%	90	27.6%	0	0.0%	272	83.4%
	Global	40	10	25.0%	24	60.0%	3	7.5%	37	92.5%
	特進	44	16	36.4%	23	52.3%	1	2.3%	40	90.9%
	スポーツ	41	9	22.0%	4	9.8%	0	0.0%	13	31.7%
	一貫	71	24	33.8%	21	29.6%	5	7.0%	50	70.4%
	計	522	241	46.2%	162	31.0%	9	1.7%	412	78.9%

## 5 次年度以降の課題

- ① 海外研修については次年度以降も実施に制限が続くと予想されるが、希望者を対象とした渡航可能な国での海外研修を企画し、今年度を上回る生徒を海外に派遣したい。
- ② 2020年度より校内英検の日を設定し、全生徒が原則年3回、英検を受験するよう指導している。2020年度、2021年度ともに、2019年以前に比べ準2級以上の取得状況が向上している(表5)。次年度以降も、2級、準1級取得者の割合増加とコース間格差の是正に、継続して取り組んでいきたい。

# 2021 グローバル人材育成事業 活動報告書

発行

 **東洋大学附属牛久中学校・高等学校**

〒300-1211 茨城県牛久市柏田町 1360-2

TEL.029-872-0350 (代) URL.<https://www.toyo.ac.jp/ushiku/>

---

〈発行者〉藤田正美 〈発行日〉2022年(令和4年)3月31日 〈制作〉(株)図書出版

**東洋大学附属牛久中学校・高等学校**